

三重県立高等学校における学び並びに 規模及び配置の現状について

三重県教育委員会事務局

目 次

■ 三重県教育ビジョンの概要	P2
■ 三重県立高等学校の活性化の現状	P7
■ 次期県立高等学校活性化計画の検討に向けた考え方等	P28
■ 関係資料集	P30

三重県教育ビジョンの概要

三重県教育ビジョンの概要 ①

1 位置付け

教育基本法に基づく本県の教育の振興のための施策に関する基本的な計画

2 対象範囲

公立学校教育、学校スポーツ、社会教育に関することなど

3 計画期間

令和6年度から令和9年度まで

本ビジョンでは、本県の教育がめざすべき方向性を「子どもたちに育みたい力」として示すとともに、その実現に向けて「教育施策の基本的な考え方」と「教育ビジョンを貫く視点」を明らかにしている。「基本施策・施策」では、「子どもたちに育みたい力」の育成を実現するため、6つの基本施策と32の施策を体系化して示している。

三重県教育ビジョンの概要 ②

子どもたちに
育みたい力

自立する力

- 他者や地球環境などを含めた社会全体のウェルビーイングをふまえながら、主体的に学び、困難に向き合い、自信と誇りを持って、責任ある行動を取る力
- 自ら定める目標の実現に向けて学ぶ内容や学ぶ方法を決定し、学びの状況を振り返りながら改善を行いつつ学び続けていく「自律した学習者」としての力

共生する力

- あらゆる他者を価値のある存在として理解・尊重し、豊かな人間関係を築くとともに、他社と共に支え合って生きていく力
- 相手の立場に立って考えたり、より広い視点で全体をとらえたりする、対立やジレンマに対処する力

創造する力

- 社会課題の解決と経済成長を結びつけるイノベーションを起こしたり、新しいアイデアや解決策を生み出したりする、新たな価値を創造する力

三重県教育ビジョンの概要 ③

教育施策の基本的な考え方

① 子どもたちの未来をひろげるために

- いじめ問題の克服
- 子どもたちの健やかな成長の支援と居場所づくり
- 誰もが安心して学べる環境づくり
- 学校安全の推進

② 一人ひとりの幸せにつながる自己肯定感を育むために

- 家庭教育の支援
- 幼児期における取組
- 学校における取組

③ 豊かな社会を創っていく力を育むために

- 幼児教育の充実
- 学力等の資質・能力の育成
- 自律した学習者の礎づくり
- 豊かな人間性の育成
- 健やかな心身の育成 など

④ さらに充実した教育の提供をめざして

- 教職員の資質・能力の向上
- 幼児教育・保育の質向上に向けた職場づくり
- 教職の魅力向上
- 「チームとしての学校」
- ICTの活用 など

⑤ 誰もがいつでも学び、活躍できる社会をめざして

- 社会・地域の課題やニーズに対応した学び、自己実現に向けた学び
- 高等教育機関との連携

三重県教育ビジョンの概要 ④

基本施策・施策

基本施策1 未来の礎となる力の育成

施策：一人ひとりの自己肯定を涵養する教育の推進 など

基本施策2 未来を創造し社会の担い手となる力の育成

施策：キャリア教育の推進 など

基本施策3 特別支援教育の推進

施策：一人ひとりに応じた切れ目のない教育の推進 など

基本施策4 いじめや暴力のない学びの場づくり

施策：いじめや暴力をなくす取組の推進 など

基本施策5 誰もが安心して学べる教育の推進

施策：不登校の状況にある児童生徒への支援 など

基本施策6 学びを支える教育環境の整備

施策：教職員の資質向上・人材確保とコンプライアンスの推進 など

教育ビジョンを貫く視点

- ▽ 子どもたちの目線に立ち、個に応じた学びを大切にします
- ▽ 学年や校種を越えた連続性のある学びを実現します
- ▽ 家庭・地域と連携・協働して子どもたちを育む学校づくりを行います
- ▽ 教職員がやりがいを持って子どもたちと向き合える環境をつくります

三重県立高等学校の活性化の現状

現行の県立高等学校活性化計画の概要 ①

1 計画趣旨

これからの子どもたちにとって魅力ある県立高等学校のあり方やさらなる活性化について検討し、実現していくためのもの

2 計画期間

令和4年度から令和8年度までの5年間

3 計画内容 (1) 活性化の取組

① 自律した学習者を育てる学びの推進

基礎・基本を重視し自己肯定感を高める教育の推進／キャリア教育の推進／探究活動の推進／高等教育機関等と連携した教育の推進／地域に根ざした教育の推進／ICTの活用による学びの推進

③ 誰一人取り残さない教育の推進

特別な支援を必要とする生徒への支援／不登校の状況にある生徒等への支援／日本語指導が必要な生徒への支援／経済的困難な状況にある生徒への支援／学びに向かう力を育む教育の推進／交通が不便な地域における生徒の学習機会の提供

⑤ 子どもたちに必要な学びの実現に向けた教職員の資質向上と学校経営改善

教職員の育成／授業力の向上／組織運営体制の強化による教育活動の活性化

② これからの社会の担い手となる力の育成

よりよく生きようとする態度の育成／社会の一員としての自覚と責任感の育成／グローバル教育の推進

④ 人口減少に対応した学びの推進

協働の学びの機会の確保／学習活動の機会の確保

⑥ これからの時代に必要な力を育む県立高等学校の各学科・課程の活性化

普通科・普通科系専門学科／職業系専門学科／総合学科／定時制課程・通信制課程

現行の県立高等学校活性化計画の概要 ②

3 計画内容 (2) これからの時代に求められる学びを提供できる県立高等学校のあり方

地域の 活性化 協議会

検討・協議事項

- 地域の高等学校の学びと配置のあり方について検討
- 1 学年 3 学級以下の高等学校は統合についても協議

※ 全ての地域に協議会は設置されていない。

検討・協議における留意点

- 統合ありきではなく、地域の実情に応じ丁寧に進める
- 状況に応じて、これまで取り組んできた、地域と連携した学びや学校独自の学びについての継承、交通が不便な地域における学びの機会の提供方策、分校化や校舎制への移行などについて協議

統合の 例 外

- 1 学年 3 学級以下の高等学校のうち、他の高等学校では担うことが難しい県内唯一の学科や学びの形態を有する高等学校は、引き続き活性化に取り組む

募集 停止

- 入学者が 2 年連続して 20 人に満たず、その後も増える見込みのない場合は、募集停止

地域の活性化協議会(地域活性化推進協議会)

委員

- 学識経験者
- 高等学校PTA関係者
- 県立学校長代表
- 地域有識者
- 関係市町教育委員会教育長
- 教職員代表
- 小中学校PTA関係者
- 小中学校長代表
- など

設置地域

- 1 学年3 学級以下の県立高等学校がある次の6 地域に設置（令和7 年7 月時点）
- 鈴鹿亀山地域
 - 津地域
 - 伊賀地域
 - 松阪地域
 - 伊勢志摩地域
 - 紀南地域

協議事項

- 今後の当該地域全体における県立高等学校の在り方に関する事
- 当該地域の県立高等学校活性化の方策に関する事
- など

留意事項

- 県立高等学校活性化計画に基づき、以下の点に留意する。
- 1 学年3 学級以下の高等学校は統合についても協議
 - 協議に当たっては、統合という結論ありきではなく、地域の実情に応じ丁寧に進めることとし、その際、状況に応じて、これまで取り組んできた、地域と連携した学びや学校独自の学びについての継承、交通が不便な地域における学びの機会の提供方策、分校化や校舎制への移行などについて協議

桑名地域の現状

1 県立高等学校（全日制）の学校規模の状況（令和8年度1学年）

地域	入学定員 (中学校卒業 見込人数)	1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級	9学級	10学級	学校数
桑名	県立:1,160 私立: 320 (1,924)				桑名北（普） 桑名工（工）		桑名西（普）	いなべ総合学園 （総）	桑名（普看護）			5校 (29学級)

【備考】

○ 学科名略称: (普)普通科(普通科におけるコース制、学際領域学科など普通教育を主とする学科を含む)、専門学科{(工)工業、(看)看護、(理)理数、(総)総合学科

2 県立高等学校の所在地

桑名地域

- 1桑名(8)
- 2桑名西(6)
- 3桑名北(4)
- 4桑名工業(4)
- 5いなべ総合学園(7)

※ () 内の数字は、令和8年度入学生における1学級40人ベースの学級数を記載



3 市町別人口（令和7年6月1日時点）

市町名	人口	市町名	人口
桑名市	134,474	木曽岬町	5,682
いなべ市	43,983	東員町	25,536

※ 出典：月別人口調査結果（三重県）

4 主な産業

農業・水産業

米を中心に生産しており、桑名市では貝類が漁獲され、いなべ市では鶏卵を生産。

製造業

自動車関係をはじめとする製造業が盛んで、製品出荷額で見ると、いなべ市は県内第2位。

※ 令和5年産作況調査、令和6年畜産統計調査、平成30年海面漁業生産統計調査（市町村別データ）、2023年経済構造実態調査（製造業事業所調査）を基に記載

四日市地域の現状

1 県立高等学校（全日制）の学校規模の状況（令和8年度1学年）

地域	入学定員 (中学校卒業 見込人数)	1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級	9学級	10学級	学校数
四日市	県立:2,480 私立: 860 (3,440)			朝明(普福)	四日市四郷(普) 菰野(普)	四日市西(普) 四日市中央工(工) 四日市農芸(農家)	四日市商(商)	川越(普他) 四日市工(工)	四日市(普) 四日市南(普)			11校 (62学級)

○ 学科名略称：(普)普通科、(普通科におけるコース制、学際領域学科など)普通教育を主とする学科を含む、(専門学科){(農)農業、(工)工業、(商)商業、(家)家庭、(福)福祉、(他)その他専門学科(国際探究)}

2 県立高等学校の所在地

6川越(7)

7四日市(8)

9四日市西(5)

11四日市四

13四日市工業(7)

15四日市商業(6)

17菰野(4)

※（ ）内の数字は、
2年度1年生におお

40人ベースの字級数を記載

直駅 JR(関西本線)



3 市町別人口（令和7年6月1日時点）

市町名	人口	市町名	人口
四日市市	299,262	朝日町	11,090
菰野町	39,513	川越町	15,670

※ 出典：月別人口調査結果（三重県）

4 主な産業

農業

茶や肉用牛、豚などの農畜産物を生産。

製造業

電子部品関係をはじめとする製造業が盛んで、
製造品出荷額で見ると、四日市市は県内第1位。

※ 令和5年産作況調査、令和6年畜産統計調査、2023年
経済構造実態調査（製造業事業所調査）を基に記載

鈴鹿亀山地域の現状

1 県立高等学校（全日制）の学校規模の状況（令和8年度1学年）

地域	入学定員 (中学校卒業 見込人数)	1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級	9学級	10学級	学校数
鈴鹿 亀山	県立:1,120 私立: 470 (2,258)		石薬師（普）		飯野（外他） 稲生（普体）	亀山（普家情）	白子（普家）	神戸（普理）				6校 (28学級)

【備考】

○ 学科名略称：（普）普通科（普通科におけるコース制、学際領域学科など普通教育を主とする学科を含む）、専門学科〔（家）家庭、（情）情報、（理）理数、（体）体育、（外）外国語、（他）その他専門学科（応用デザイン）〕

2 県立高等学校の所在地



3 市町別人口（令和7年6月1日時点）

市町名	人口
鈴鹿市	189,895
亀山市	49,343

※ 出典：月別人口調査結果（三重県）

4 主な産業

農業

茶や花き（主に植木）、鶏卵などの生産が盛んで、サツキ、ツツジは全国1位の生産量。

製造業

自動車関係をはじめとする製造業が盛んで、製品出荷額で見ると、鈴鹿市は県内第3位。

※ 令和5年産作況調査、令和4年産花木等生産状況調査、令和6年畜産統計調査、2023年経済構造実態調査（製造業事業所調査）を基に記載

鈴鹿亀山地域高等学校活性化推進協議会の開催状況(令和6年度)

概要

令和6年度に実施した中学生や保護者へのアンケート調査の結果を踏まえながら、当地域において15年先に実現したい学びや育みたい力、今後の検討の方向性などについて協議を進めました。

主な意見

- 大学進学に対応する一定規模の普通科高校は必要だが、過去の生徒急増期に普通科の定員を大きく増やしたことから考えると、今後は多様な学びの選択肢を維持しつつ、普通科を中心に定員を減らしながら学びを集約していく方向になるのではないかと。
- 隣接地域への流出を食い止めるためにも、工業をはじめとする専門性の高い学びの充実は当地域の願いであり、学科の設置だけでなく、普通科におけるコースの設置や他校との連携など、さまざまな方策を検討しながら実現につなげてほしい。
- 部活動が充実していることは、高校を選択する際の大きな魅力の1つとなっている。全ての高校が小規模化されて、十分な部活動ができなくなってしまうよう、部活動の活性化という視点も大切にしてほしい。

今後の予定

令和10年度に中学校卒業生数の大幅な減少が見込まれていることから、その対応について、令和7年度中に協議会としての考え方を取りまとめます。

津地域の現状

1 県立高等学校（全日制）の学校規模の状況（令和8年度1学年）

地域	入学定員 (中学校卒業 見込人数)	1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級	9学級	10学級	学校数
津	県立:1,840 私立: 685 (2,525)		白山（普商）		久居（普）		津東（普） 津商（商） 津工（工） 久居農林（農家）		津（普） 津西（普他）			8校 (46学級)

【備考】

- 学科名略称：(普)普通科(普通科におけるコース制、学際領域学科など普通教育を主とする学科を含む)、専門学科{(農)農業、(工)工業、(商)商業、(家)家庭、(他)その他専門学科(国際科学)}
- 私立高校の定員には、青山高校を含みません。

2 県立高等学校の所在地



※ () 内の数字は、令和8年度入学生における1学級40人ベースの学級数を記載

3 市町別人口（令和7年6月1日時点）

市町名	人口
津市	264,957

※ 出典：月別人口調査結果（三重県）

4 主な産業

農業・水産業

農業では、キャベツなどの野菜、花き、乳牛などの様々な農畜産物を生産。
 水産業では、いわし類の漁獲量が多く、県内2位。

製造業

市内に16か所の公的工業団地があり、製造品出荷額は県内5位。

※ 令和5年産作況調査、令和4年産花木等生産状況調査、令和6年畜産統計調査、平成30年海面漁業生産統計調査（市町村別データ）、2023年経済構造実態調査（製造業事業所調査）を基に記載

津地域高等学校活性化推進協議会の開催状況(令和6年度)

概要

これからの当地域高等学校の学びと配置を考える上で大切にしたいことや、今後議論を深めていくために必要な視点などについて協議を進めました。

主な意見

- 小規模校には、全ての職員が個々の生徒の抱える背景等を把握したり、丁寧に関わることができたりするなど、小規模校ならではのよさがある。一方で、多様な選択科目の開設、少人数・習熟度別指導の実施、社会・理科・芸術等における専門性の高い教員の配置、多様な進路への対応など、子どもたちの学びに関しては、学校規模があることのメリットは大きい。
- 当地域に多く設置されている普通科高校の特色化・魅力化を図るため、学際領域学科や地域社会学科など普通教育を主とする学科や総合学科への改編も検討してはどうか。また、地域と連携した学びを推進していくために、当協議会において地域の方の意見を聞くことも必要ではないか。
- 今後の当地域の高校の学びと配置のあり方を考える際には、隣接する鈴鹿亀山、伊賀、松阪地域の協議会の検討状況も考慮する必要がある。また、15年先の中学校卒業生数を考えると、特に専門学科のあり方等については、県全体で検討していく必要があるのではないかと。

今後の予定

令和7年度に中学生と保護者を対象とするアンケート調査を実施し、普通科の特色化・魅力化を中心として、当地域の高校の学びと配置のあり方について協議を進めます。

伊賀地域の現状

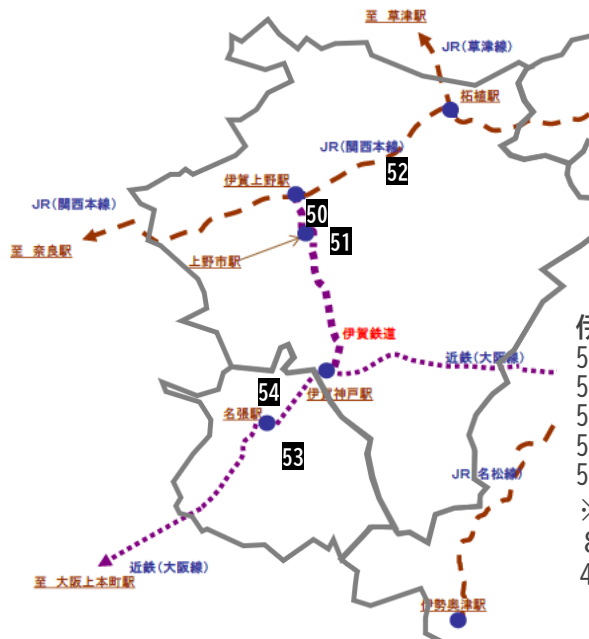
1 県立高等学校（全日制）の学校規模の状況（令和8年度1学年）

地域	入学定員 (中学校卒業 見込人数)	1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級	9学級	10学級	学校数
伊賀	県立: 920 私立: 155 (1,368)	あけぼの学園 (総)				名張(総) 名張青峰(普)	上野(普理) 伊賀白鳳(農工商福)					5校 (23学級)

【備考】

- 学科名略称: (普) 普通科(普通科におけるコース制、学際領域学科など普通教育を主とする学科を含む)、専門学科{(農) 農業、(工) 工業、(商) 商業、(福) 福祉、(理) 理数、(総) 総合学科}
- 1学級40人ベースの学級数を記載していますが、30人・35人学級の実施により伊賀白鳳高校は7学級240人として募集しています。
- 私立高校の定員には、愛農学園高校を含みません。

2 県立高等学校の所在地



伊賀地域
50上野(6)
51伊賀白鳳(6)
52あけぼの学園(1)
53名張青峰(5)
54名張(5)

※ () 内の数字は、令和8年度入学生における1学級40人ベースの学級数を記載

3 市町別人口（令和7年6月1日時点）

市町名	人口
名張市	72,377
伊賀市	82,563

※ 出典：月別人口調査結果（三重県）

4 主な産業

農業

米やぶどう、鶏卵、肉牛などの様々な農畜産物を生産。

製造業

特に伊賀市で、化学工業や生産用機械の製造業が盛んで、製造品出荷額は県内6位。

※ 令和5年産作況調査、令和6年畜産統計調査、2023年経済構造実態調査（製造業事業所調査）を基に記載

伊賀地域高等学校活性化推進協議会の開催状況(令和6年度)

概要

「令和5年度伊賀地域協議会のまとめ」や令和6年度に実施した中学生や保護者へのアンケート調査の結果をふまえ、今後想定される段階的な学級減への対応について検討を進めました。

主な意見

- 難関大学への進学に対応できる学科・コースを持つ高校、専門性の高い学びができる高校、不登校を経験した子どもたちが安心して通えるような小規模の高校、それぞれにニーズがあると感じる。ただし、少子化の進行を鑑みると、現在の高校の配置をベースに考えるのではなく、交通の便がよいところに学びを集約するなど、機能面とハード面は分けて検討する必要がある。
- 15年先には、当地域の高校は伊賀市に1校、名張市に1校となることが想定される。時代によって必要とされる学びや機能などのソフト面は変化するが、校舎の新築や建替えなどハード面は10年先を見据えた計画が必要となることから、どの場所に集約するのかを早期に打ち出す必要がある。
- 中学校卒業者数の減少により、学校数が減ることは致し方ないが、多様な学びの選択肢の維持と多様な子どもたちへの対応を同時に追求していく必要がある。

今後の予定

令和6年度に整理した「令和7年度まとめに向けた方向性」に基づき、令和10年度以降の学級減への対応について、令和7年度中に協議会としての考え方を取りまとめます。

松阪地域の現状

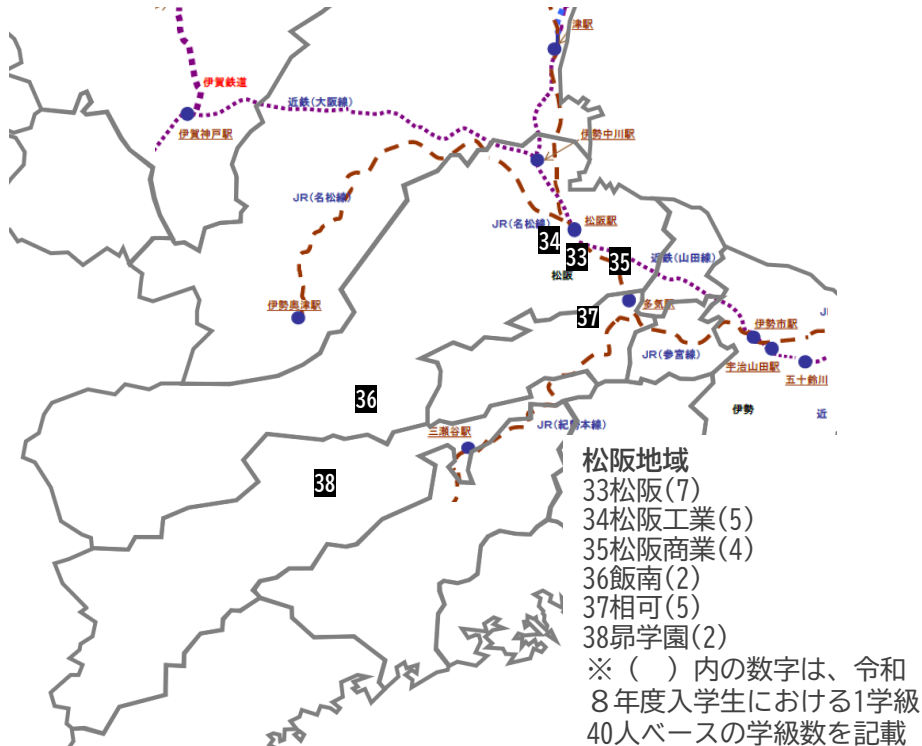
1 県立高等学校（全日制）の学校規模の状況（令和8年度1学年）

地域	入学定員 （中学校卒業 見込人数）	1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級	9学級	10学級	学校数
松阪	県立:1,000 私立: 530 (1,810)		飯南（総） 昴学園（総）		松阪商（商）	松阪工（工） 相可（普農家）		松阪（普理）				6校 (25学級)

【備考】

○ 学科名略称：（普）普通科（普通科におけるコース制、学際領域学科など普通教育を主とする学科を含む）、専門学科 {（農）農業、（工）工業、（商）商業、（家）家庭、（理）理数、（総）総合学科

2 県立高等学校の所在地



3 市町別人口（令和7年6月1日時点）

市町名	人口	市町名	人口
松阪市	152,007	明和町	21,899
多気町	13,143	大台町	7,778

※ 出典：月別人口調査結果（三重県）

4 主な産業

農業

米や茶、肉牛などが生産されており、特に肉牛は「松阪牛」というブランドで知られている。

製造業

特に松阪市で、食料品製造や窯業・土石製品製造業、化学工業の製造業が盛んで、製造品出荷額は県内7位。

※ 令和5年産作況調査、令和6年畜産統計調査、2023年経済構造実態調査（製造業事業所調査）を基に記載

松阪地域高等学校活性化推進協議会の開催状況(令和6年度)

概要

令和6年度に実施した中学生や保護者へのアンケート調査の結果をふまえながら、令和11年度までに想定される学級減への対応の方向性について協議を進め、当協議会を設置した令和4年度から6年度までの協議のまとめを策定しました。

主な意見

- 当地域の特色ある多様な学びの選択肢を維持するため、学科間連携の視点を持ちながら、専門学科の集約をどのように図るかを検討する必要がある。
- 学校規模について議論する際には、特別な支援を必要とする生徒や不登校傾向にある生徒など、多様な背景を持つ生徒に寄り添い、一人ひとりを大切にするという視点をまとめに加筆する必要があるのではないか。
- 15年先を見据えた方向性を取りまとめるためには、校舎の老朽化も念頭に置く必要がある。次回の協議会では、県立高校の校舎の状況や建替えに関する資料を提供してもらいたい。

今後の予定

令和11年度に中学校卒業生数の大幅な減少が見込まれていることから、その対応について、令和8年度までに協議会としての考え方を取りまとめます。

伊勢志摩地域の現状

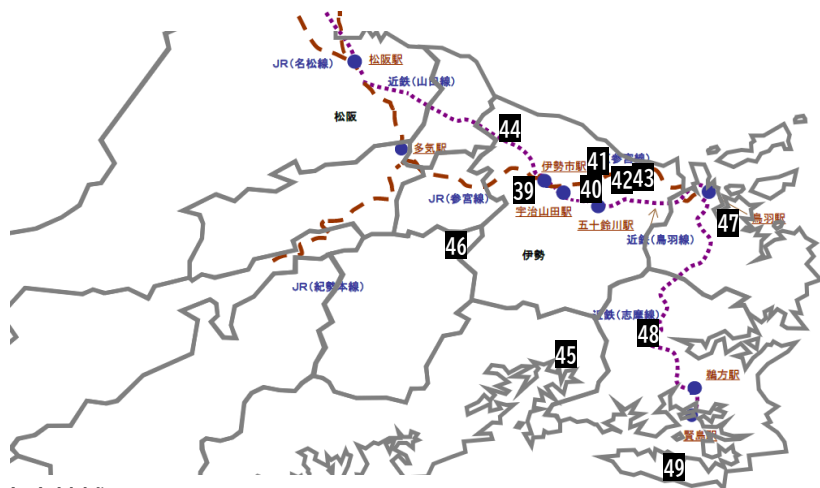
1 県立高等学校（全日制）の学校規模の状況（令和8年度1学年）

地域	入学定員 (中学校卒業 見込人数)	1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級	9学級	10学級	学校数
伊勢 志摩	県立:1,120 私立: 545 (1,718)	南伊勢（普） 鳥羽（総） 志摩（普）	水産（水）		明野（農家福） 宇治山田（普） 宇治山田商（商） 伊勢工（工）			伊勢（普）				9校 (28学級)

【備考】

- 学科名略称：（普）普通科（普通科におけるコース制、学際領域学科など普通教育を主とする学科を含む）、専門学科 {（農）農業、（工）工業、（商）商業、（水）水産、（家）家庭、（福）福祉、（総）総合学科}
- 校舎制の南伊勢高校は、度会校舎1学級・南勢校舎0学級となっています。

2 県立高等学校の所在地



伊勢志摩地域

39宇治山田(4)
40伊勢(7)
41伊勢工業(4)
42宇治山田商業(4)
43伊勢まなび
44明野(4)

45南伊勢・南勢校舎(0)
46南伊勢・度会校舎(1)
47鳥羽(1)
48志摩(1)
49水産(2)

※（ ）内の数字は、令和8年度入学生における1学級40人ベースの学級数を記載

3 市町別人口（令和7年6月1日時点）

市町名	人口	市町名	人口
伊勢市	116,142	度会町	7,273
鳥羽市	15,697	大紀町	6,753
志摩市	41,097	南伊勢町	9,197
玉城町	14,565		

※ 出典：月別人口調査結果（三重県）

4 主な産業

水産業

鳥羽市、志摩市、南伊勢町を中心に、海面漁業ではカツオや伊勢エビなど、養殖漁業では真珠やのりなどが盛んで、特にばらのりの収穫量は全国1位。

※ 平成30年海面漁業生産統計調査（市町村別データ）を基に記載

伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会の開催状況(令和6年度)

概要

当協議会の「令和5年度の協議（今後の学びと配置のあり方について）」をふまえ、令和13～15年度頃までに想定される断続的な学級減への対応について、「伊勢市内の高校の再編」と「小規模校のあり方」の2つの視点から協議を進めました。

主な意見

- 当地域には普通科、多様な専門学科、総合学科がバランスよく配置されていることから、通学の利便性も考慮し、できるだけ当地域内での再編を考えたい。
- 不登校の子どもたちが増えている中、既存の学びのスタイルありきではなく、遠隔授業なども取り入れながら、全日制課程だけでなく通信制課程や定時制課程を含めて多様な学びに対応していく必要がある。
- 15年先に実現したい学びや学校像から逆算して、その過程として再編を考えることは大切だが、15年先の総学級数を考えると、かなり思い切った再編が必要になることが想定される。

今後の予定

令和10年度に中学校卒業者数の大幅な減少が見込まれていることから、その対応について、令和7年度中に協議会としての考え方を取りまとめます。

紀北地域の現状

1 県立高等学校（全日制）の学校規模の状況（令和8年度1学年）

地域	入学定員 (中学校卒業 見込人数)	1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級	9学級	10学級	学校数
紀北	県立:160 私立: 0 (197)				尾鷲(普工商)							1校 (4学級)

【備考】

- 学科名略称: (普)普通科(普通科におけるコース制、学際領域学科など普通教育を主とする学科を含む)、専門学科{(工)工業、(商)商業}
- 1学級40人ベースの学級数を記載していますが、30人・35人学級の実施により、尾鷲高校は5学級160人として募集しています。

2 県立高等学校の所在地



※ () 内の数字は、令和8年度入学生における1学級40人ベースの学級数を記載

3 市町別人口（令和7年6月1日時点）

市町名	人口
尾鷲市	14,229
紀北町	12,868

※ 出典：月別人口調査結果（三重県）

4 主な産業

林業・水産業

林業ではスギやヒノキの生産が行われている。
水産業では、カツオやマグロなどの海面漁業、ブリなどの養殖漁業が盛んに行われている。

※ 令和4年林業産出額、平成30年海面漁業生産統計調査（市町村別データ）を基に記載

紀南地域の現状

1 県立高等学校（全日制）の学校規模の状況（令和8年度1学年）

地域	入学定員 (中学校卒業 見込人数)	1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級	9学級	10学級	学校数
紀南	県立:200 私立: 0 (250)					熊野青藍（普総）						1校 (5学級)

【備考】

- 学科名略称：（普）普通科（普通科におけるコース制、学際領域学科など普通教育を主とする学科を含む）、（総）総合学科
- 校舎制の熊野青藍高校は、木本校舎4学級・紀南校舎1学級となっています。

2 県立高等学校の所在地



3 市町別人口（令和7年6月1日時点）

市町名	人口
熊野市	14,226
御浜町	7,422
紀宝町	9,566

※ 出典：月別人口調査結果（三重県）

4 主な産業

農業・林業

農業では温州みかんなどの柑橘類、林業ではスギやヒノキの生産が行われている。

※ 令和5年産作況調査、令和4年林業産出額を基に記載

紀南地域高等学校活性化推進協議会の開催状況(令和6年度)

概要

熊野青藍高校（令和7年4月に木本高校と紀南高校を統合して開校）について、両校の校長をリーダーとするワーキング会議における検討状況を共有し、学びや部活動のあり方などについて協議を進めました。

主な意見

- 探究的な学びや「東紀州未来学」は、熊野青藍高校の大きな強みとなるはずだが、具体的な中身が伝わってこない。和歌山県の高校への進学を希望する中学生もいる中、子どもたちにもっとわかりやすく新校の魅力を伝えてほしい。
- 中学生の志望が時間とともに県立高校から県外の高校へと移っていく傾向は、統合前と変わっていない。この要因をしっかりと分析し、小中学校と連携しながら、熊野青藍高校の魅力化や子どもたちや保護者への情報発信に取り組んでほしい。

今後の予定

熊野青藍高校が開校しましたが、引き続き協議会を開催し、同校の活性化に向けた協議を進めます。

三重県教育委員会から三重県教育改革推進会議への諮問 ①

これまで

県立高等学校の活性化に向けた
地域の活性化協議会ごとでの検討

鈴鹿亀山地域

津地域

伊賀地域

松阪地域

伊勢志摩地域

紀南地域

生徒の学びのニーズが多様化

少子化の進行が加速

課題

各協議会を中心とした検討は困難なため、次期計画策定に当たっては、

- 県内全域を見通した考え方
- 学校施設の改築等の長期的な視点

に留意し、専門的かつ多角的な視点から早急に検討を進める必要がある。

令和7年3月26日 三重県教育委員会から三重県教育改革推進会議へ諮問

三重県教育委員会から三重県教育改革推進会議への諮問 ②

三重県教育改革推進会議（令和7年3月26日）の開催状況

決定 事項

- 県立高等学校の在り方調査研究部会の設置

学び

- 不登校の生徒が学びやすい高校の在り方を検討してほしい。
- 特別支援学校の高等部の在り方も併せて考える必要があるのではないかな。
- 地域の活性化に貢献している県立高校があることも考えてほしい。

主な 意見

規模・ 配置

- 少子化が進む中であって、高校の数は減らさざるを得ないのではないかな。
- 1学年1学級や2学級規模では、子どもたちにとってデメリットが大きいのではないかな。

地域

- 地域の活性化協議会だけで地域の高校の在り方を議論するのは今後難しくなるのではないかな。
- 地域との連携が大切であり、今後、コミュニティ・スクールの重要性が増してくるのではないかな。

次期県立高等学校活性化計画の 検討に向けた考え方等

次期県立高等学校活性化計画の検討に向けた考え方等

考え方

- 大学進学の一ニーズに応える一定規模の普通科が地域内で必要
- 多様な学びの選択肢を地域内でできる限り維持することが必要

課題

- 15 年先を見据えると、地域内だけで多様な学びを提供することは困難
- 校舎の建替え等を考えると、長期的な視点に立った検討が必要

整理したい事項

- 学科及び課程の在り方
- 適正な規模及び配置
- 統合後の学校施設の整備
- 活性化を進めるに当たっての地域との関係

關係資料集

令和6年度 地域の県立高校に関するアンケート調査の結果 ①

調査期間

■ 令和6年9月から10月まで

調査
主体

■ 鈴鹿亀山地域高等学校活性化推進協議会
■ 伊賀地域高等学校活性化推進協議会
■ 松阪地域高等学校活性化推進協議会

調査
対象

■ 地域の公立中学校2年生の生徒
■ 地域の公立中学校2年生の保護者
■ 地域の公立小学校5年生の保護者

1 高校を選ぶときに重視する点（主なもの）

選択肢（6つ以内を選択）

- ① 学びたい学科やコースがある
- ② 確かな学力を身につける授業の充実
- ③ 専門的な知識や技能、資格が習得できる
- ④ 興味関心に応じて多様な学びが選択できる
- ⑤ 地域と連携した活動が充実している
- ⑥ 文化祭や体育祭など学校行事が充実
- ⑦ 入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている
- ⑧ 友だちや先輩、先生などとの多くの出会い
- ⑨ 一人ひとりの状況に応じて、きめ細かな教育が期待できる
- ⑩ 通学のしやすさ・距離
- ⑪ 学校の雰囲気・イメージ
- ⑫ 施設・設備の充実 ⑬ 進学・就職の実績
- ⑭ 自分の適性や能力
- ⑮ 先生や保護者、友だち等の周囲の人の意見
- ⑯ 学費などの経費負担
- ⑰ その他（自由記述）

■ 生徒

	鈴鹿亀山	伊賀	松阪
⑪ 学校の雰囲気・イメージ	53.1%	48.0%	49.0%
⑩ 通学のしやすさ・距離	50.5%	49.8%	49.3%
⑥ 文化祭や体育祭など学校行事が充実	47.6%	46.0%	42.4%
① 学びたい学科やコースがある	39.1%	42.7%	39.5%
⑦ 入りたい部活動、部活動が活発	33.9%	35.3%	35.7%

■ 保護者

	鈴鹿亀山	伊賀	松阪
① 学びたい学科やコースがある	69.6%	71.2%	73.3%
⑩ 通学のしやすさ・距離	69.3%	68.1%	64.4%
④ 興味関心に応じて多様な選択ができる	58.7%	63.3%	59.4%
② 確かな学力を身につける授業の充実	38.9%	42.8%	39.2%
⑪ 学校の雰囲気・イメージ	41.8%	35.6%	38.2%

※ 各地域での回答者に対する割合を合算した数値の上位5項目

令和6年度 地域の県立高校に関するアンケート調査の結果 ②

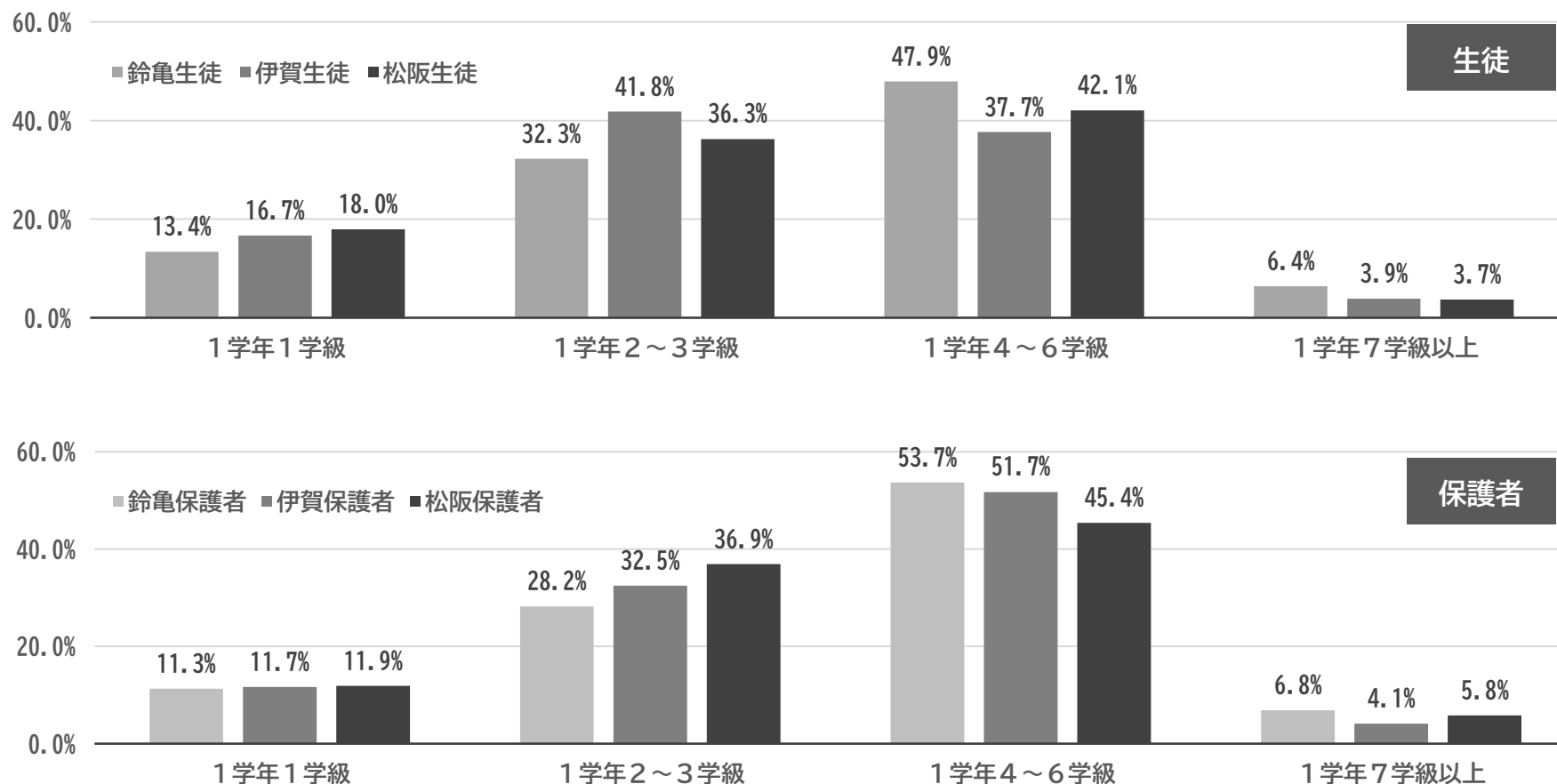
2 高校に期待する教育（主なもの）

選択肢（5つ以内を選択）	■ 生徒	鈴鹿亀山	伊賀	松阪
① 自ら学び続ける力が身につく教育	① 自ら学び続ける力	52.0%	54.0%	52.6%
② 自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育	⑦ 基本的な知識	48.0%	46.2%	43.1%
③ 多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育	⑪ 社会人として必要なマナーや責任感	46.9%	44.2%	42.0%
④ 地域を題材として学ぶ教育	⑩ 社会性やコミュニケーション能力など	42.0%	43.2%	40.1%
⑤ 大学や企業等と連携・協働して学ぶ教育	② 自ら問いを見つけ主体的に取り組む力	34.1%	32.3%	30.6%
⑥ 人権に対する意識が高まる教育				
⑦ 基本的な知識が身につく教育	■ 保護者	鈴鹿亀山	伊賀	松阪
⑧ ICTを積極的に活用する教育	① 自ら学び続ける力	58.5%	59.5%	61.0%
⑨ 広く世界で活躍できる力が身につく教育	⑩ 社会性やコミュニケーション能力など	58.5%	58.8%	60.7%
⑩ 社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育	② 自ら問いを見つけ主体的に取り組む力	50.4%	51.8%	53.6%
⑪ 社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育	③ 多様な選択肢から進路を決定する力	49.6%	52.9%	49.0%
⑫ 特別活動や部活動などを通じて豊かな人間性が身につく教育	⑪ 社会人として必要なマナーや責任感	46.1%	44.1%	47.1%
⑬ 一人ひとりの状況に応じて適切な支援が受けられる教育				
⑭ その他（自由記述）				

※ 各地域での回答者に対する割合を合算した数値の上位5項目

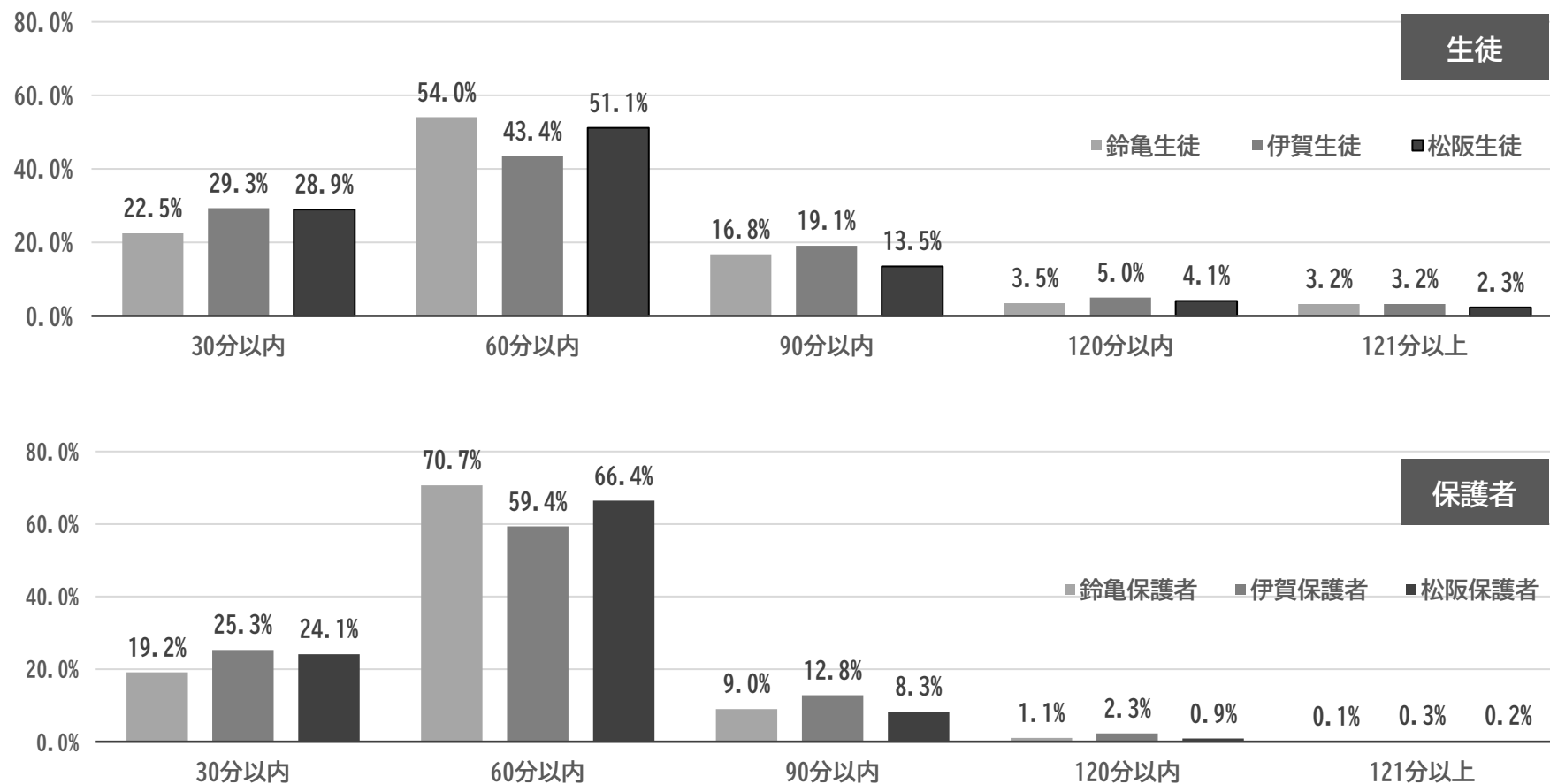
令和6年度 地域の県立高校に関するアンケート調査の結果 ③

3 希望する学校規模



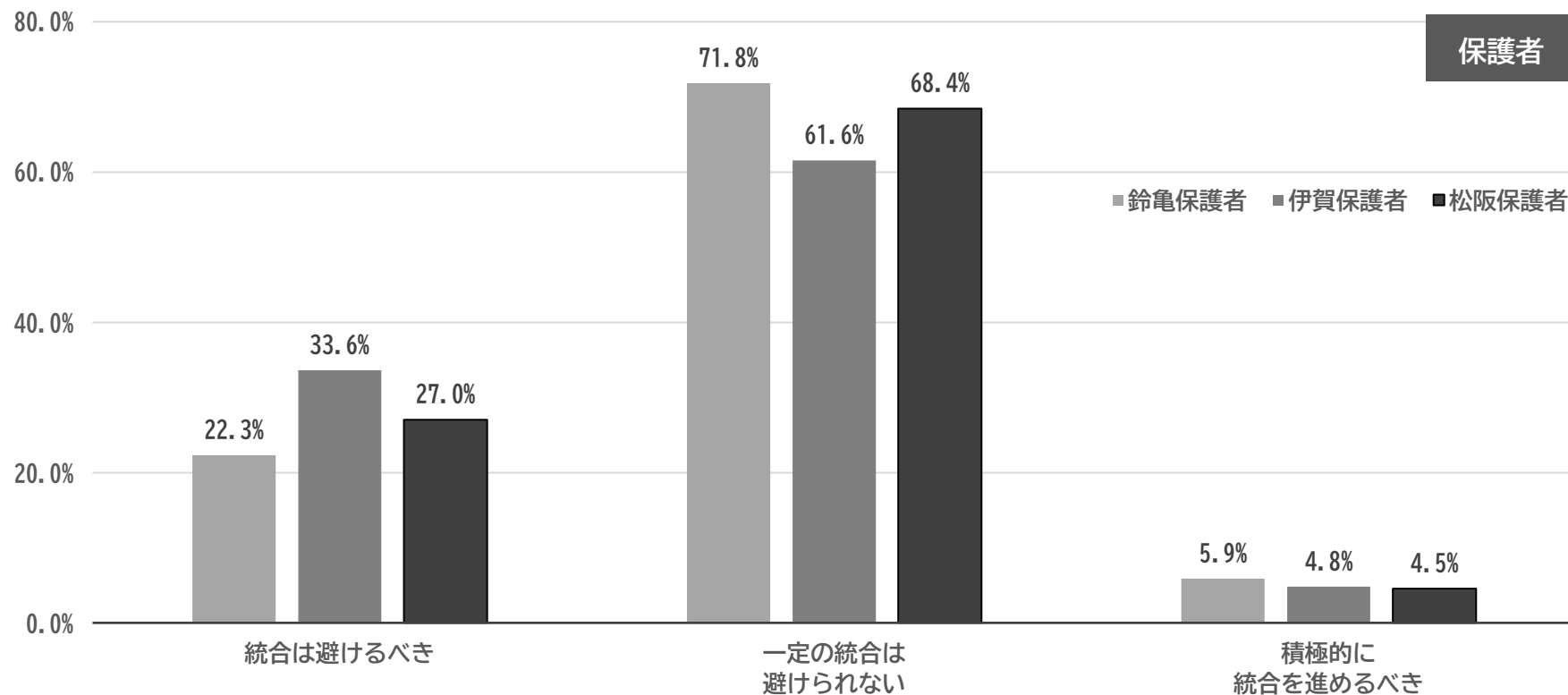
令和6年度 地域の県立高校に関するアンケート調査の結果 ④

4 許容できる通学時間

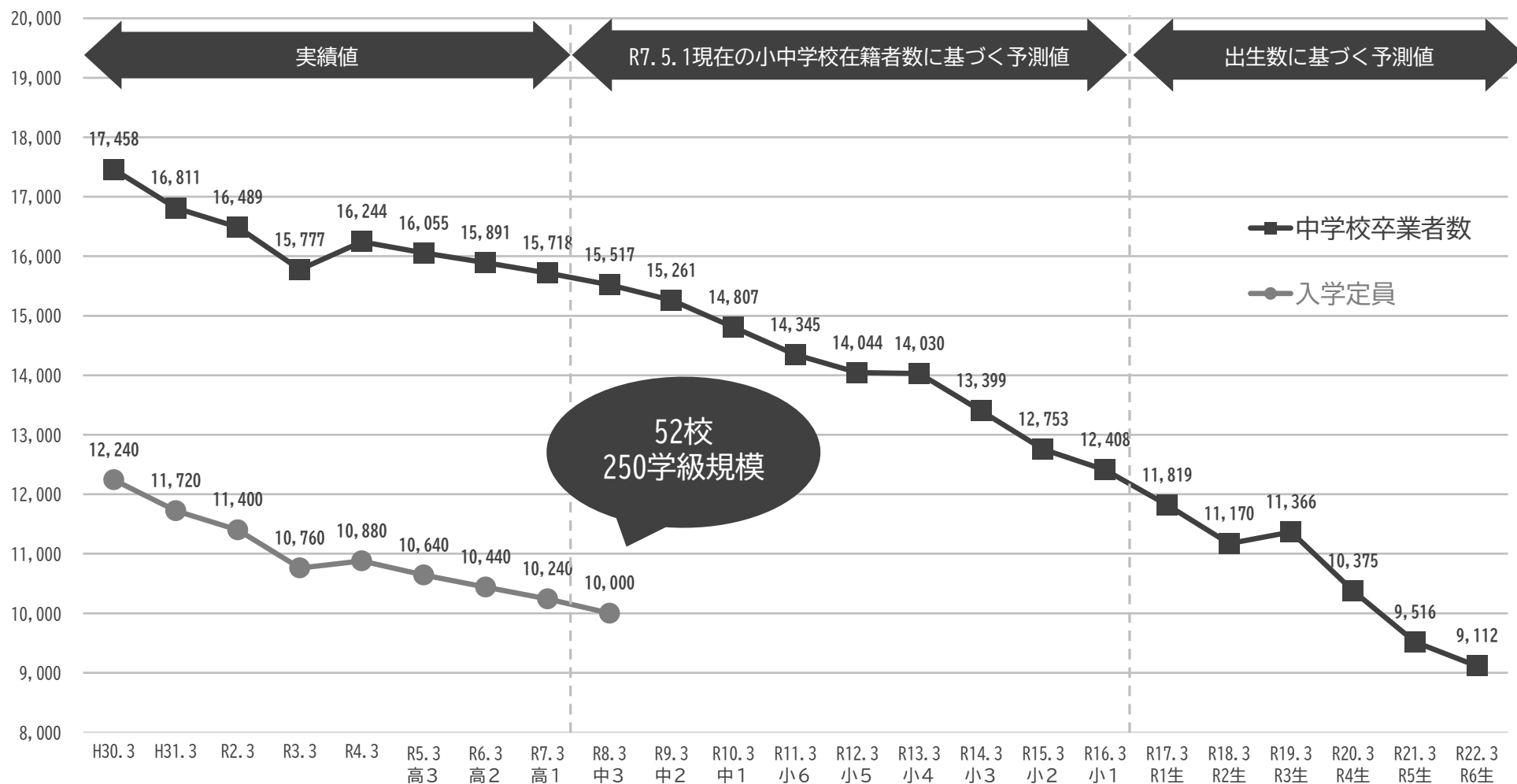


令和6年度 地域の県立高校に関するアンケート調査の結果 ⑤

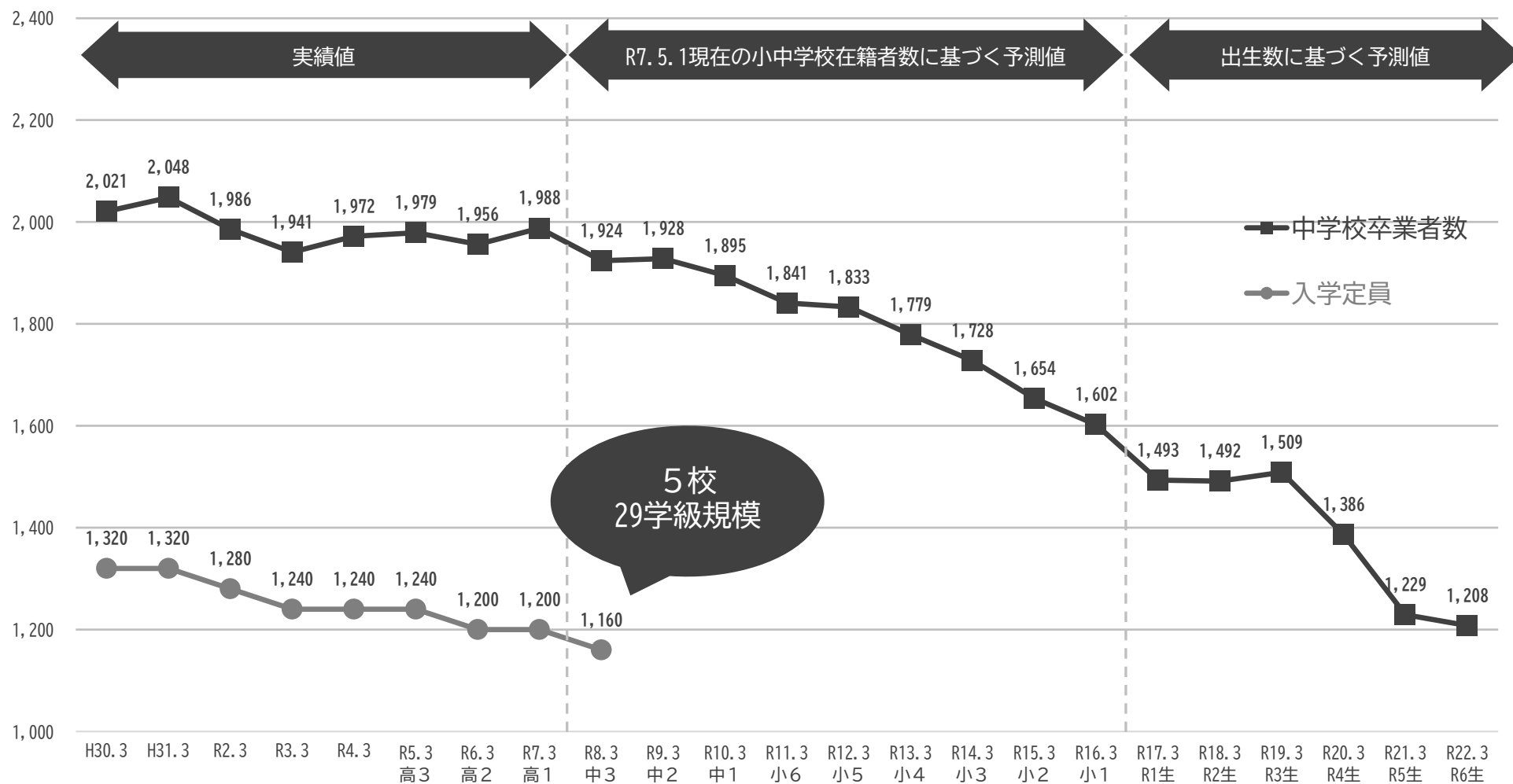
5 今後の地域の県立高校のあり方



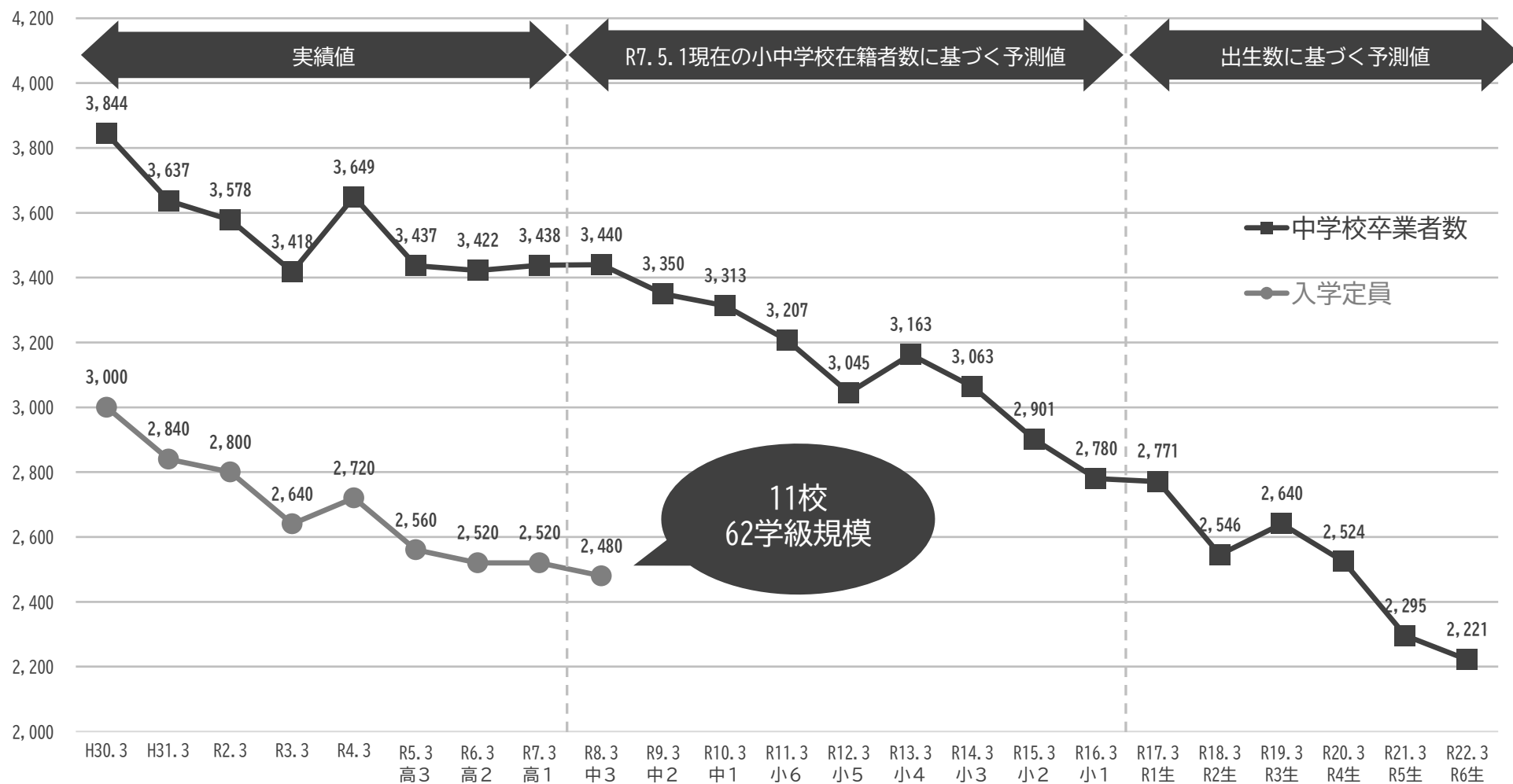
県全体の中学校卒業生数と県立高等学校入学定員(全日制)の推移



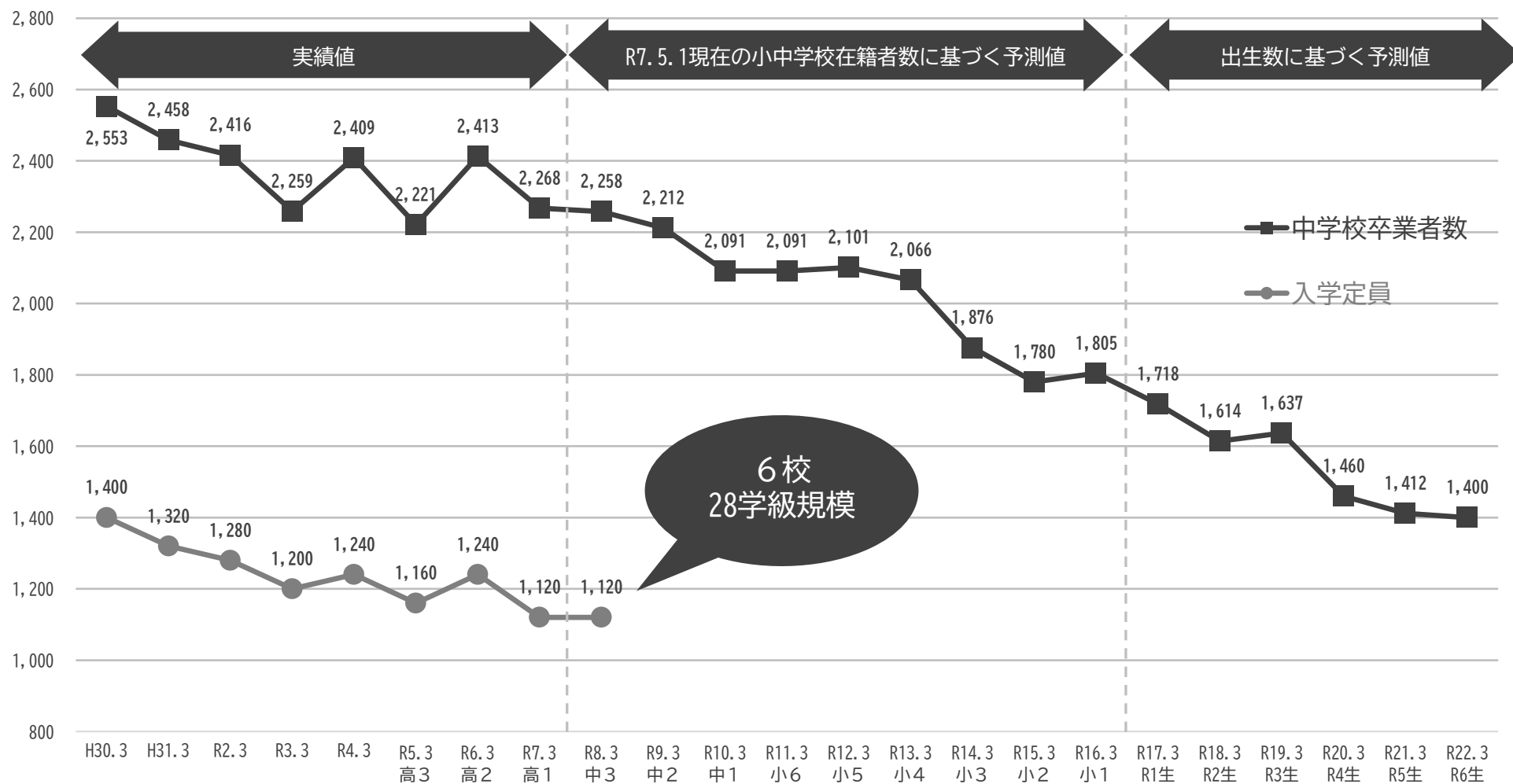
桑名地域の中学校卒業生数と県立高等学校入学定員(全日制)の推移



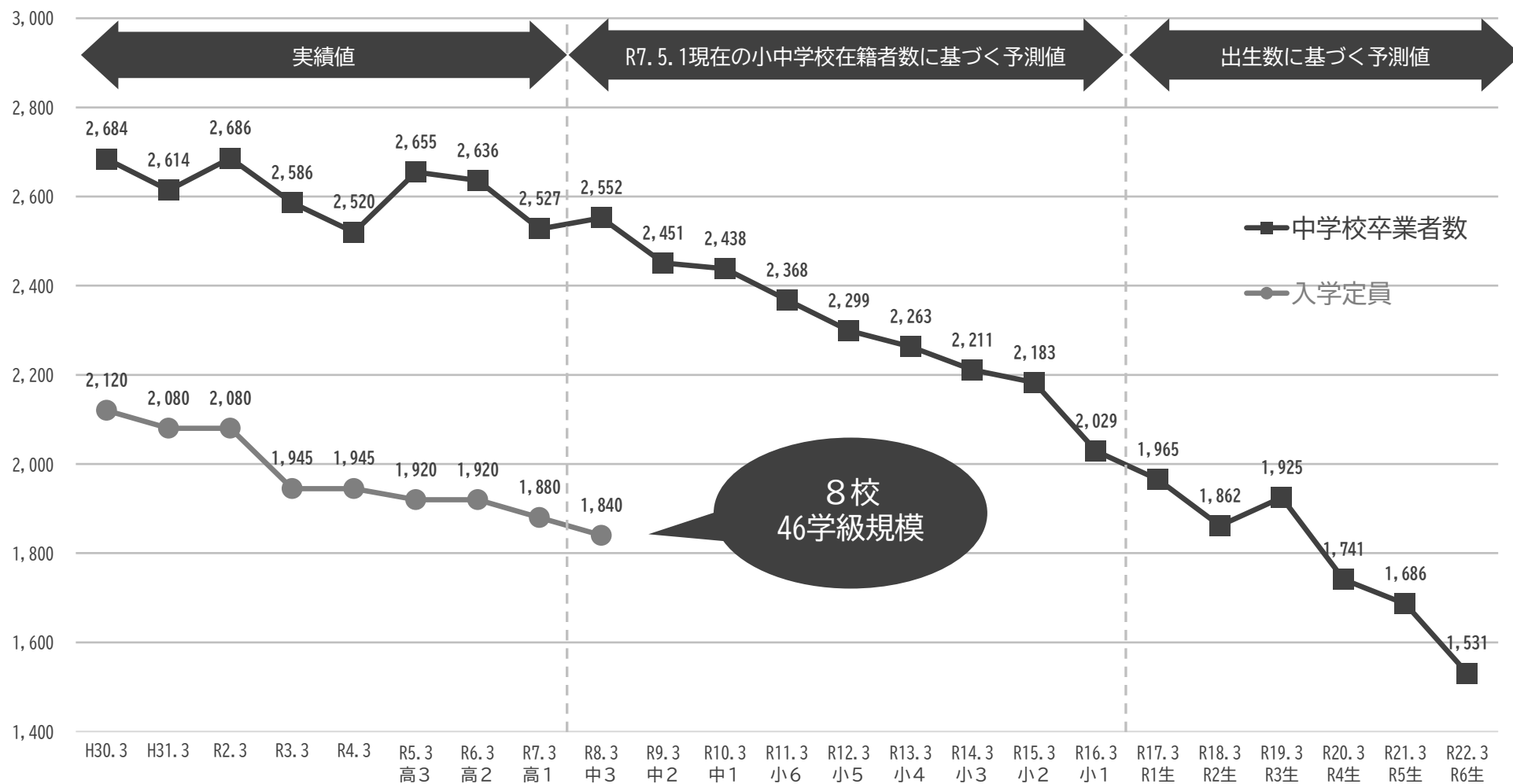
四日市地域の中学校卒業生数と県立高等学校入学定員(全日制)の推移



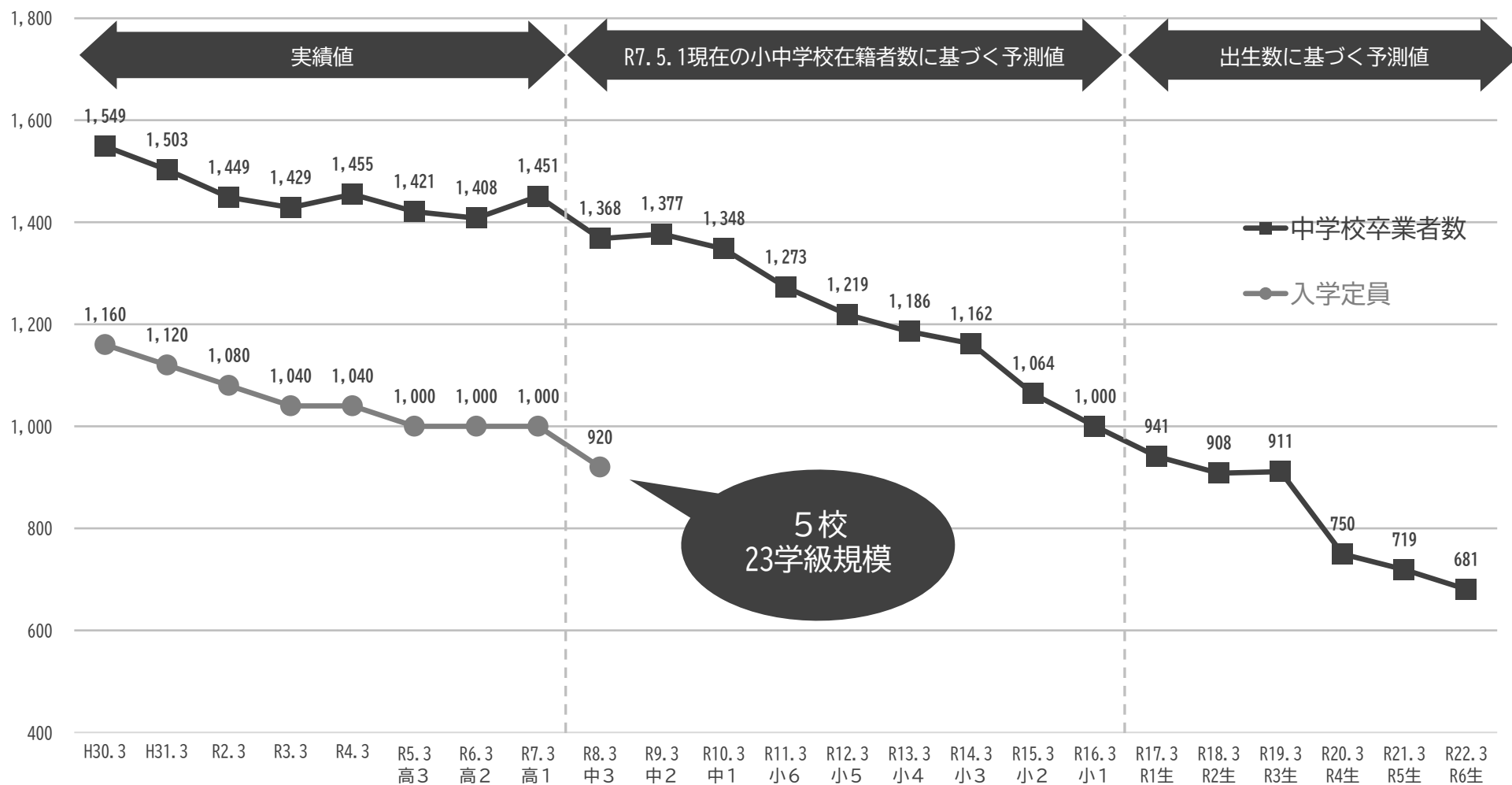
鈴鹿亀山地域の中学校卒業生数と県立高等学校入学定員(全日制)の推移



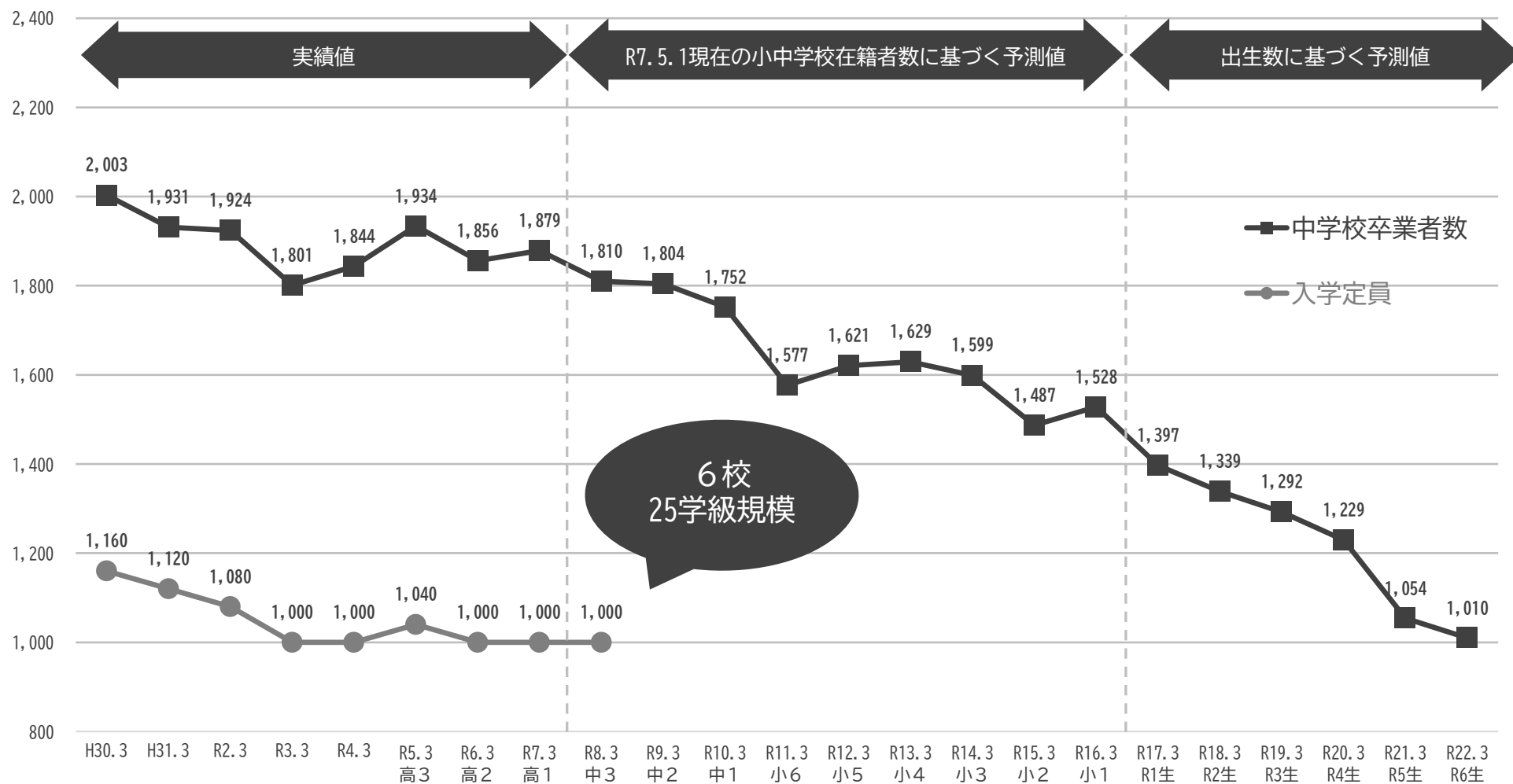
津地域の中学校卒業生数と県立高等学校入学定員(全日制)の推移



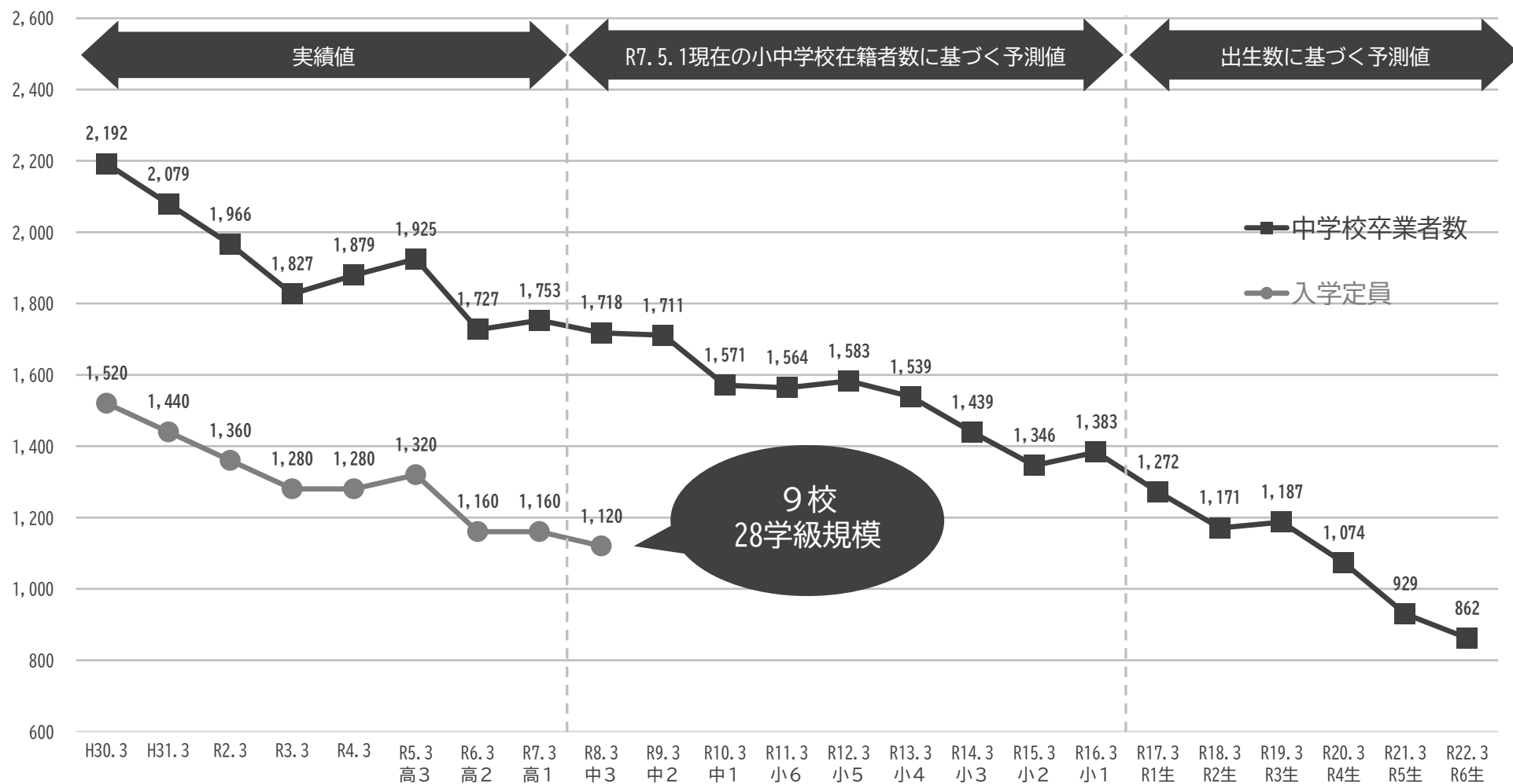
伊賀地域の中学校卒業生数と県立高等学校入学定員(全日制)の推移



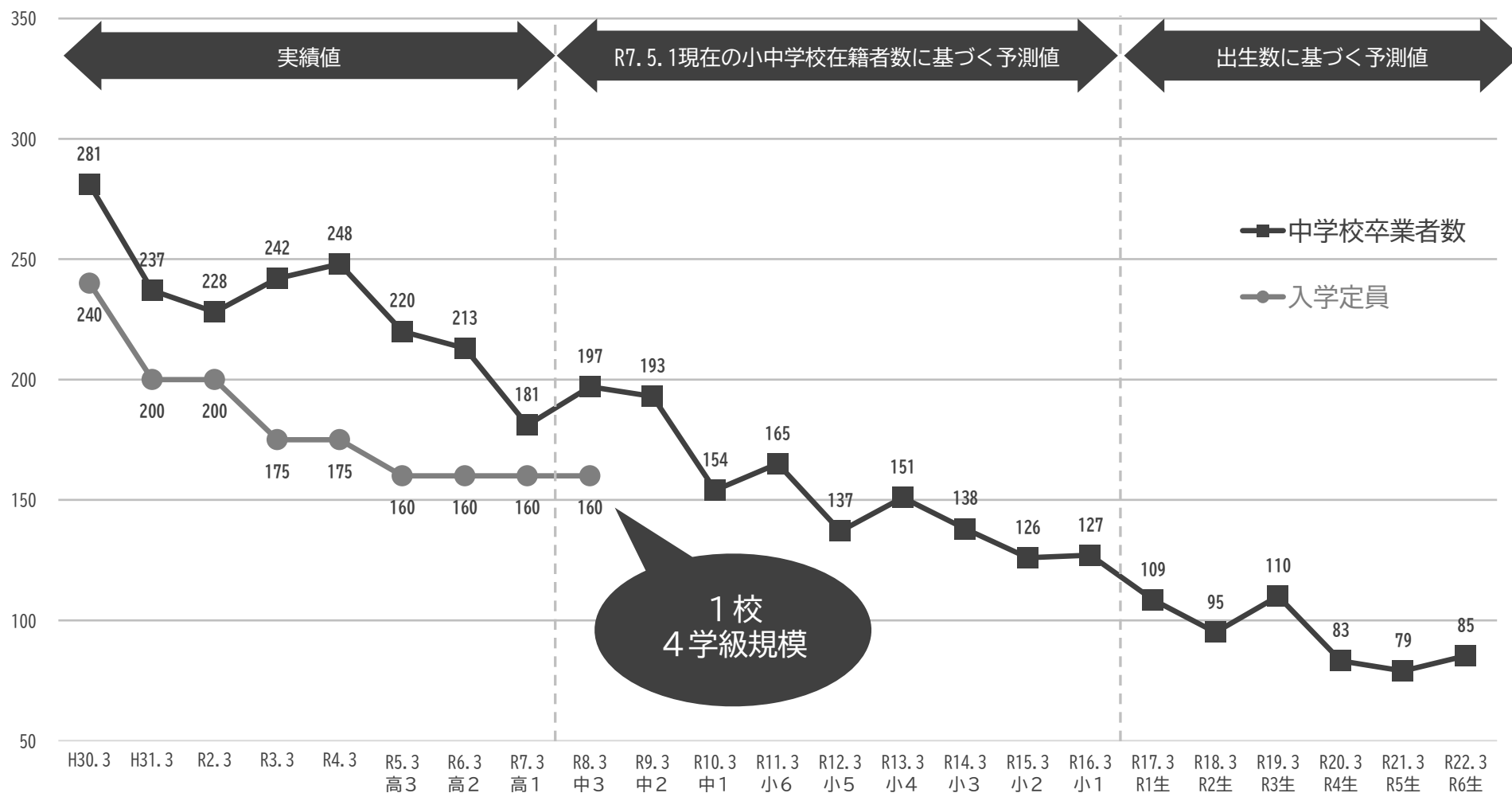
松阪地域の中学校卒業生数と県立高等学校入学定員(全日制)の推移



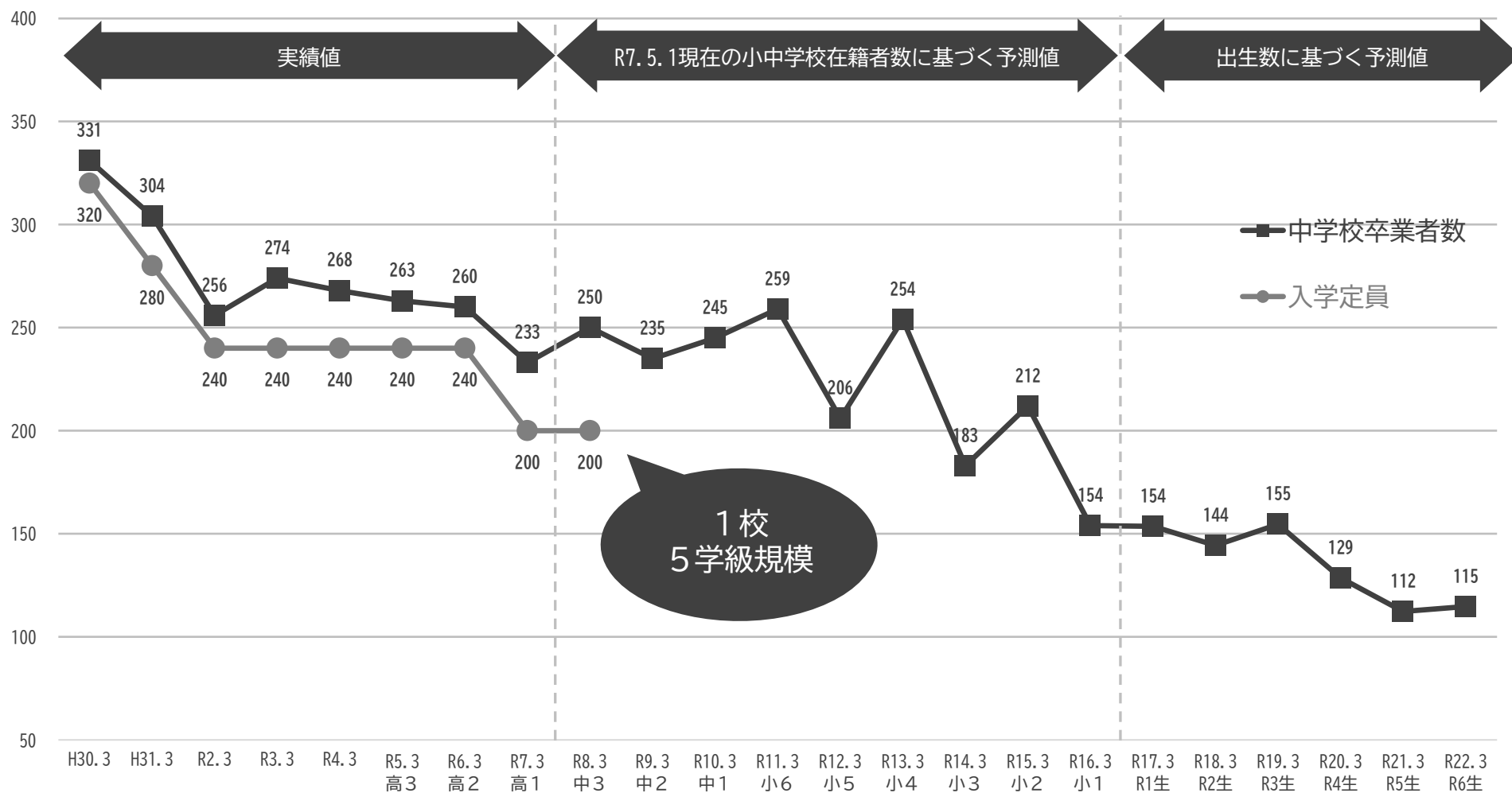
伊勢志摩地域の中学校卒業生数と県立高等学校入学定員(全日制)の推移



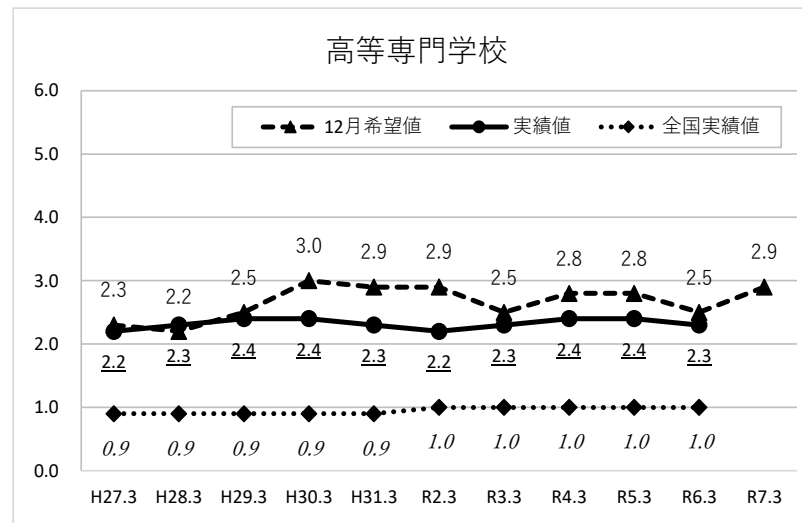
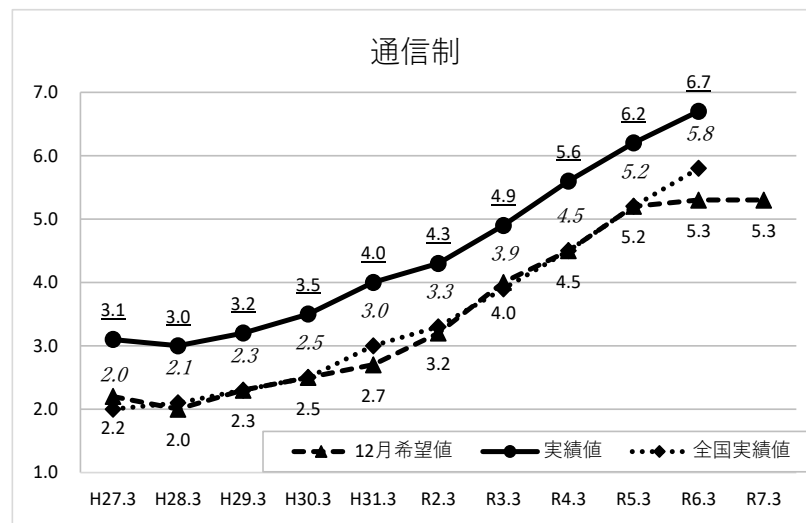
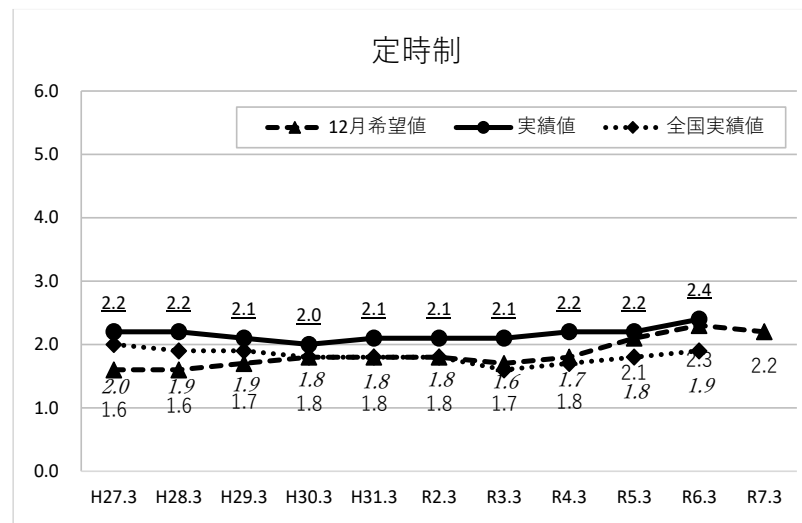
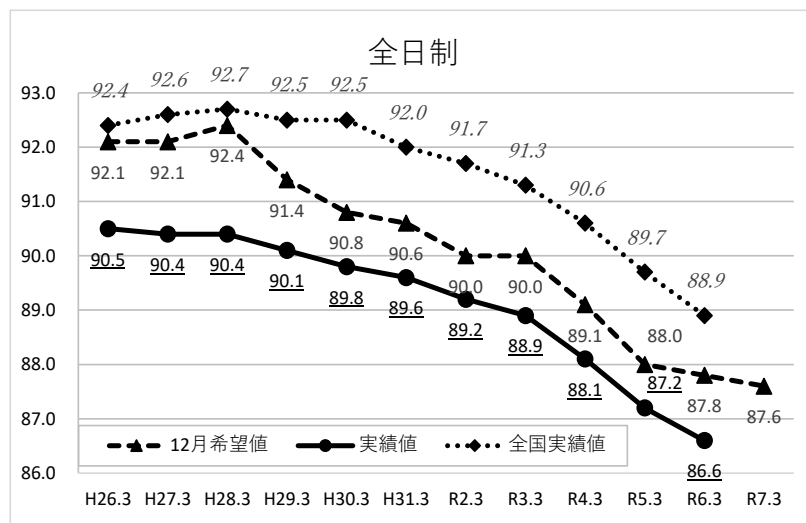
紀北地域の中学校卒業生数と県立高等学校入学定員(全日制)の推移



紀南地域の中学校卒業生数と県立高等学校入学定員(全日制)の推移



全日制・定時制・通信制高等学校及び高等専門学校への進学率



※横軸は卒業年月、縦軸は進学率

※進学率は卒業生数に対する進学者数の割合 (%) ~ 12月希望値・実績値(下線)・全国実績値(明朝斜体) ~

県立高等学校(全日制)の学校規模の状況(平成23年度1学年)

地域	入学定員 (中学校卒業 者数)	1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級	9学級	10学級	学校数
桑名	県立:1,400 私立: 310 (2,229)				桑名工(工)		桑名北(普)		桑名西(普) いなべ総合学園 (総)	桑名(普看理)		5校 (35学級)
四日市	県立:3,080 私立: 870 (3,762)				菰野(普)		朝明(普) 四日市中央工(工) 四日市農芸(農家)	四日市四郷(普) 四日市商(商)	四日市南(普) 四日市西(普) 四日市工(工) 川越(普外)	四日市(普)		11校 (77学級)
鈴鹿 亀山	県立:1,440 私立: 470 (2,456)				飯野(外他)	石薬師(普)	稲生(普体) 亀山(普家情)	白子(普家)	神戸(普理)			6校 (36学級)
津	県立:2,160 私立: 680 (2,987)			白山(普商)		津工業(工)	久居農林(農家)	津商(商) 久居(普)	津東(普)	津(普) 津西(普他)		8校 (54学級)
伊賀	県立:1,320 私立: 170 (1,742)		あけぼの学園(総)			名張(総)	名張桔梗丘(普) 名張西(普工外)	上野(普理) 伊賀白鳳(農工商福)				6校 (33学級)
松阪	県立:1,200 私立: 540 (1,962)		飯南(総) 昂学園(総)			松阪商(商他)	松阪工(工)	相可(普農家)	松阪(普理)			6校 (30学級)
伊勢 志摩	県立:1,705 私立: 565 (2,704)			南伊勢(普) 志摩(普) 水産(水)	鳥羽(総)	明野(農家福) 宇治山田商(商) 伊勢工(工)		宇治山田(普)	伊勢(普)			9校 (43学級)
紀北	県立:280 私立: 0 (371)							尾鷲(普工商)				1校 (7学級)
紀南	県立:360 私立: 0 (395)			紀南(普)			木本(普総)					2校 (9学級)
県全体	県立:12,945 私立:3,605 (18,608)	0校	3校	5校	4校	7校	11校	10校	10校	4校	0校	54校 (324学級)

【備考】

- 学科名略称: (普)普通科(普通科におけるコース制を含む)、専門学科{(農)農業、(工)工業、(商)商業、(水)水産、(家)家庭、(看)看護、(情)情報、(福)福祉、(理)理数、(体)体育、(外)外国語、(他)その他専門学科(国際科学、国際教養、応用デザイン)}、(総)総合学科
- 校舎制の南伊勢高校は、南勢校舎2学級・度会校舎1学級となっています。
- 1学級40人ベースの学級数を記載していますが、30人・35人学級の実施により水産高校は3学級105人として募集しています。
- 私立高校の定員には、青山高校、愛農学園高校を含みません。

県立高等学校(全日制)の学校規模の状況(令和8年度1学年)

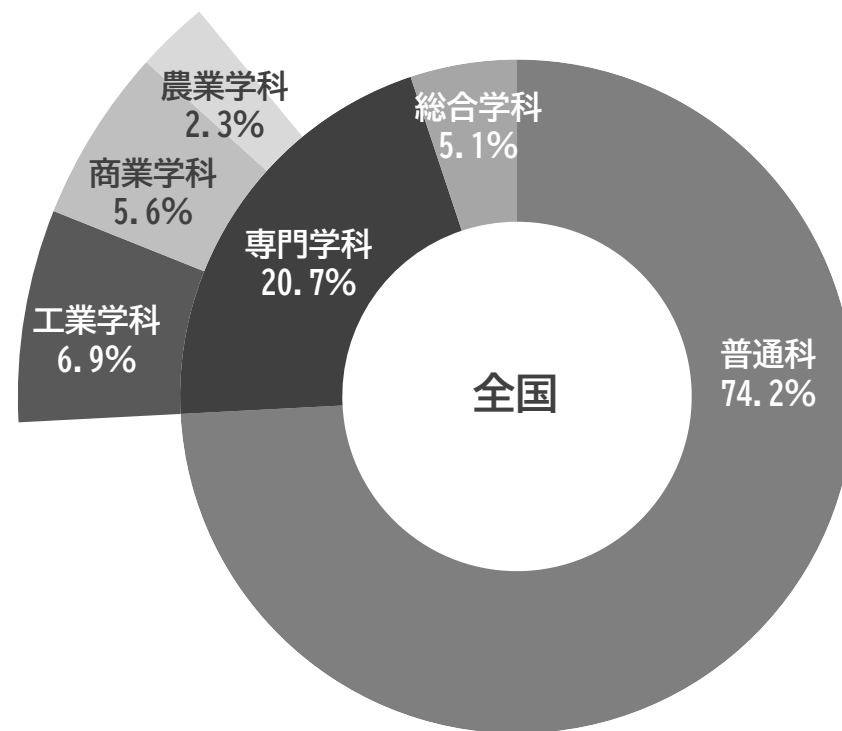
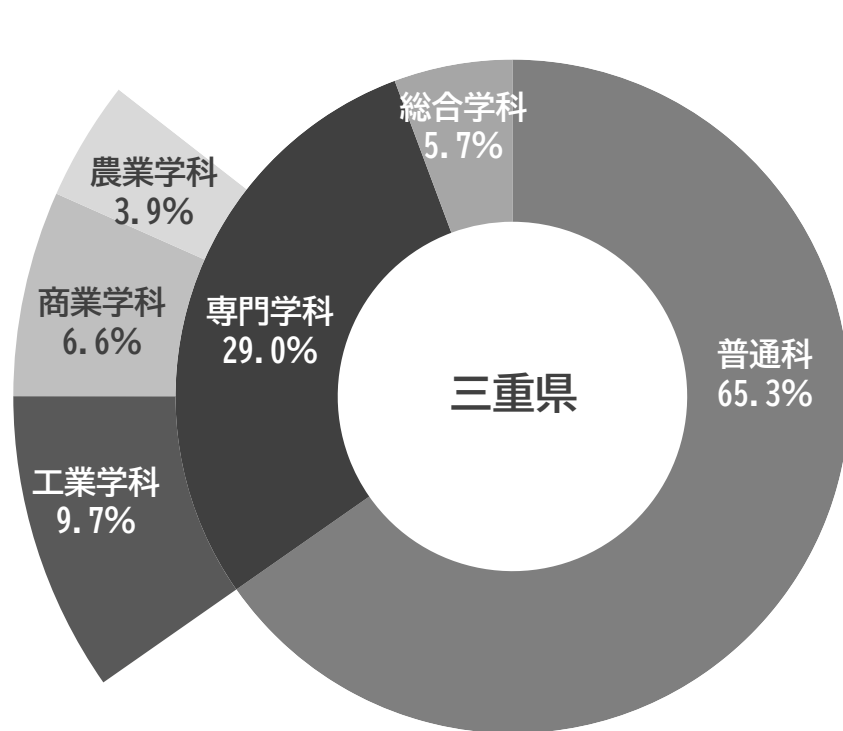
地域	入学定員 (中学校卒業 見込人数)	1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級	9学級	10学級	学校数
桑名	県立:1,160 私立: 320 (1,924)				桑名北(普) 桑名工(工)		桑名西(普)	いなべ総合学園 (総)	桑名(普看護)			5校 (29学級)
四日市	県立:2,480 私立: 860 (3,440)			朝明(普福)	四日市四郷(普) 菟野(普)	四日市西(普) 四日市中央工(工) 四日市農芸(農家)	四日市商(商)	川越(普他) 四日市工(工)	四日市(普) 四日市南(普)			11校 (62学級)
鈴鹿 亀山	県立:1,120 私立: 470 (2,258)		石薬師(普)		飯野(外他) 稲生(普体)	亀山(普家情)	白子(普家)	神戸(普理)				6校 (28学級)
津	県立:1,840 私立: 685 (2,552)		白山(普商)		久居(普)		津東(普) 津商(商) 津工(工) 久居農林(農家)		津(普) 津西(普他)			8校 (46学級)
伊賀	県立: 920 私立: 155 (1,368)	あけぼの学園(総)				名張(総) 名張青峰(普)	上野(普理) 伊賀白鳳(農工商福)					5校 (23学級)
松阪	県立:1,000 私立: 530 (1,810)		飯南(総) 昂学園(総)		松阪商(商)	松阪工(工) 相可(普農家)		松阪(普理)				6校 (25学級)
伊勢 志摩	県立:1,120 私立: 545 (1,718)	南伊勢(普) 鳥羽(総) 志摩(普)	水産(水)		明野(農家福) 宇治山田(普) 宇治山田商(商) 伊勢工(工)			伊勢(普)				9校 (28学級)
紀北	県立:160 私立: 0 (197)				尾鷲(普工商)							1校 (4学級)
紀南	県立:200 私立: 0 (250)					熊野青藍(普総)						1校 (5学級)
県全体	県立:10,000 私立: 3,565 (15,517)	4校	5校	1校	13校	9校	9校	6校	5校	0校	0校	52校 (250学級)

【備考】

- 学科名略称: (普)普通科(普通科におけるコース制、学際領域学科など普通教育を主とする学科を含む)、専門学科{(農)農業、(工)工業、(商)商業、(水)水産、(家)家庭、(看)看護、(情)情報、(福)福祉、(理)理数、(体)体育、(外)外国語、(他)その他専門学科(国際探究、国際科学、応用デザイン)}、(総)総合学科
- 校舎制の熊野青藍高校は、木本校舎4学級・紀南校舎1学級となっています。
- 1学級40人ベースの学級数を記載していますが、30人・35人学級の実施により伊賀白鳳高校は7学級240人、尾鷲高校は5学級160人として募集しています。
- 私立高校の定員には、青山高校、愛農学園高校を含みません。

全日制高等学校(国公私立)学科別生徒の割合

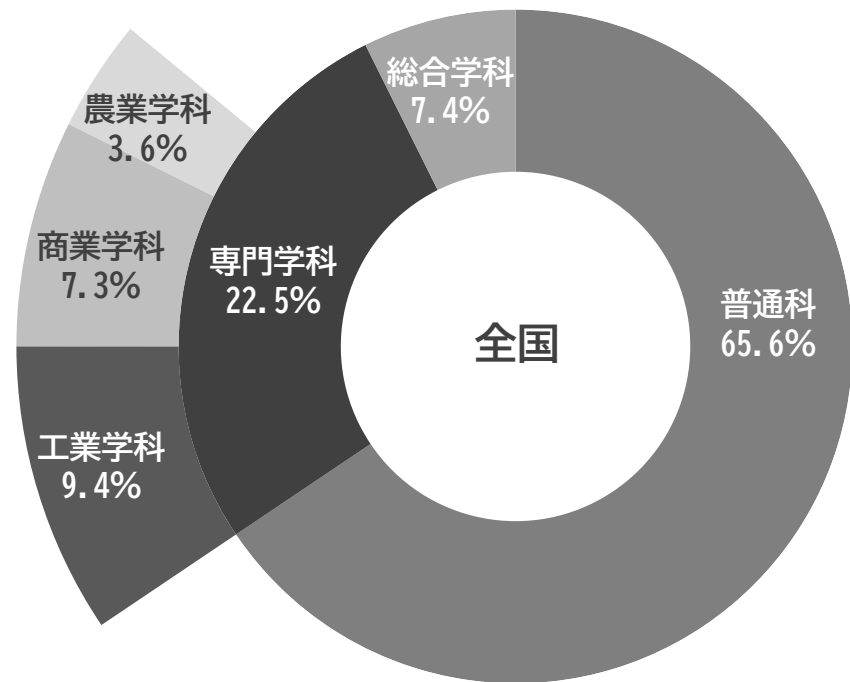
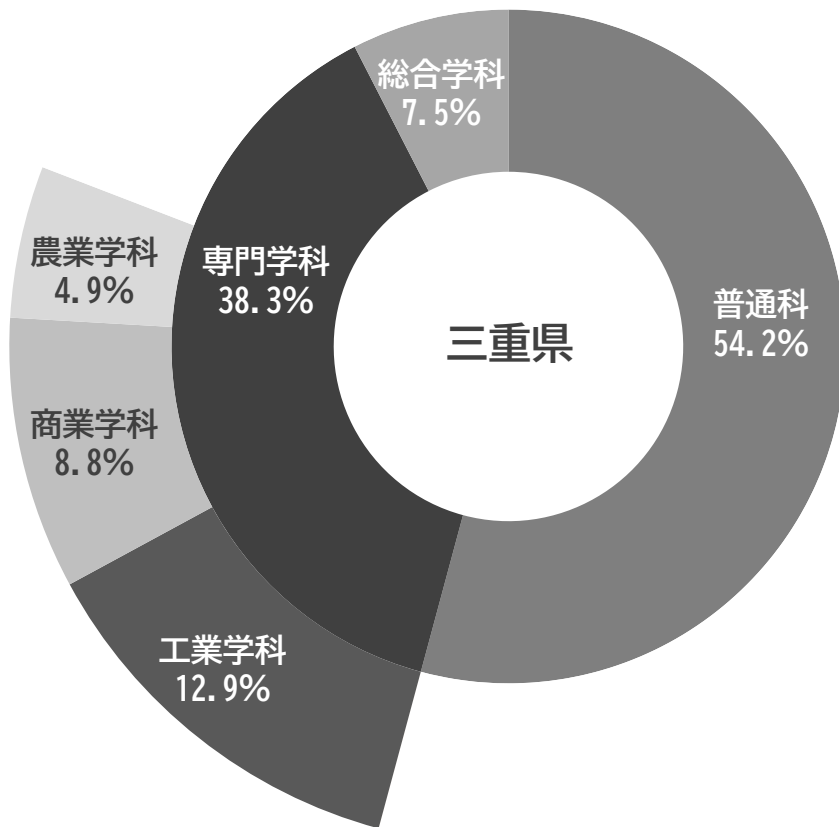
全国と比べて、工業学科を中心に専門学科に在籍している生徒の割合が大きい



※ 学校基本調査（2024年）を基に三重県教育委員会で加工

全日制高等学校(公立)学科別生徒の割合

全国と比べて、工業学科を中心に専門学科に在籍している生徒の割合が大きい

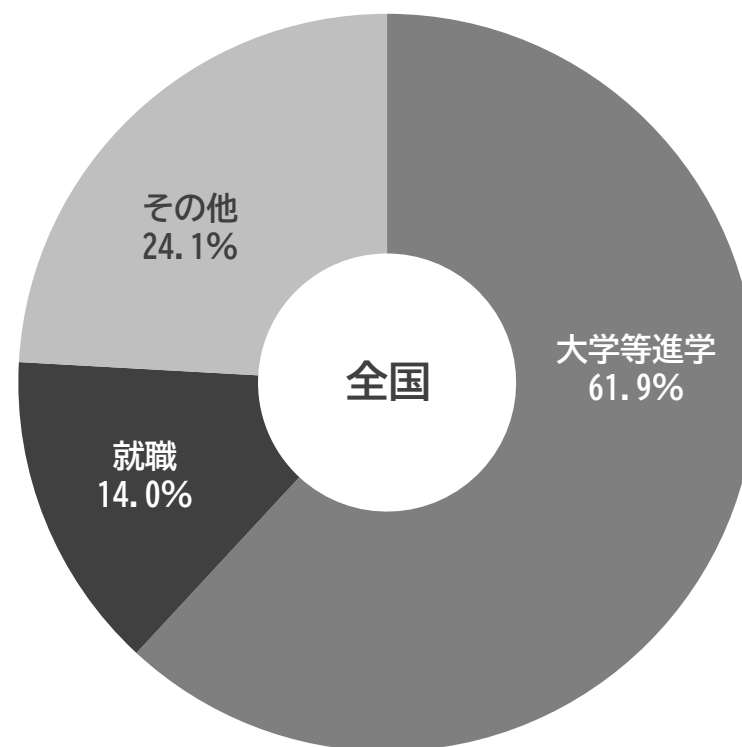
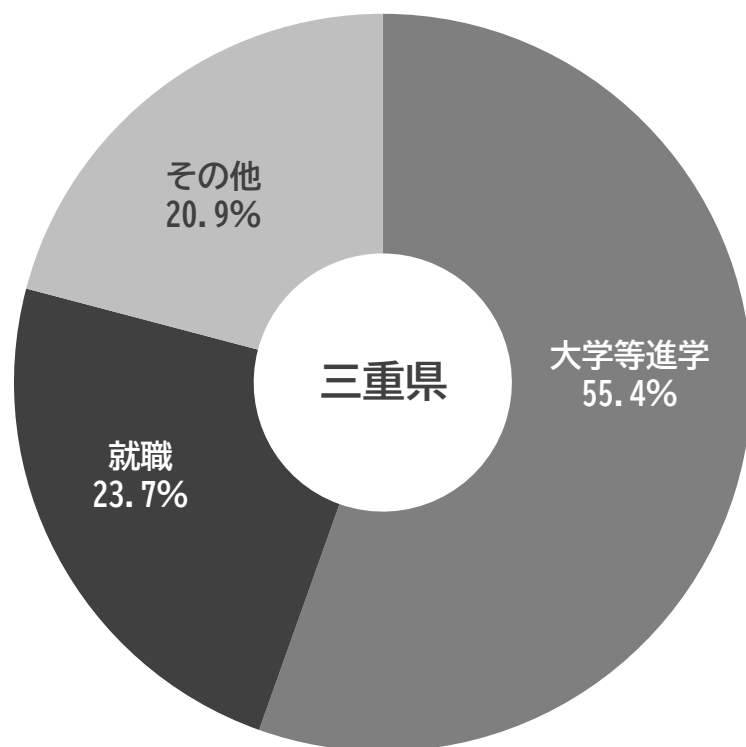


※ 学校基本調査（2024年）を基に三重県教育委員会で加工

高等学校(国公私立)卒業者の進路状況

※ 全日制課程及び定時制課程

全国と比べて、就職している生徒の割合が大きい

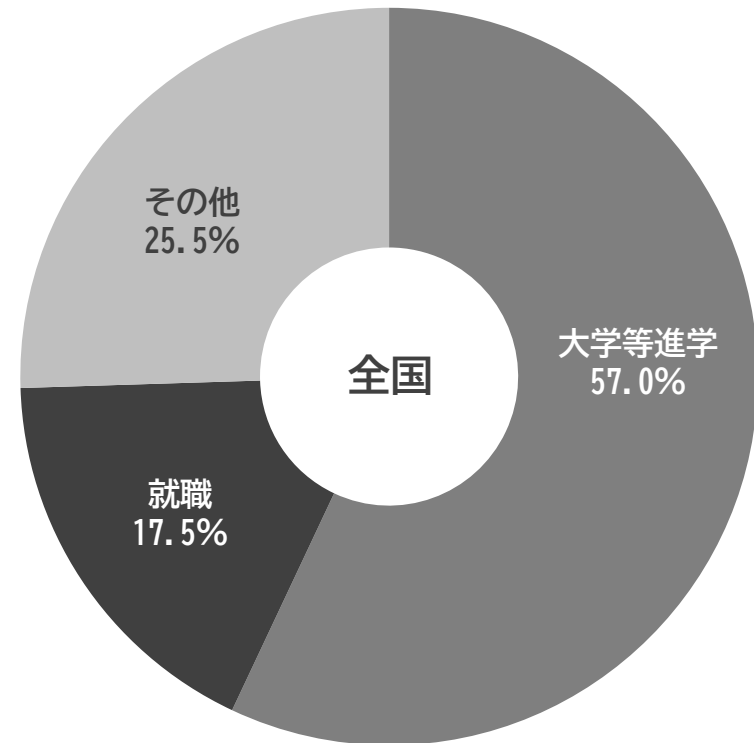
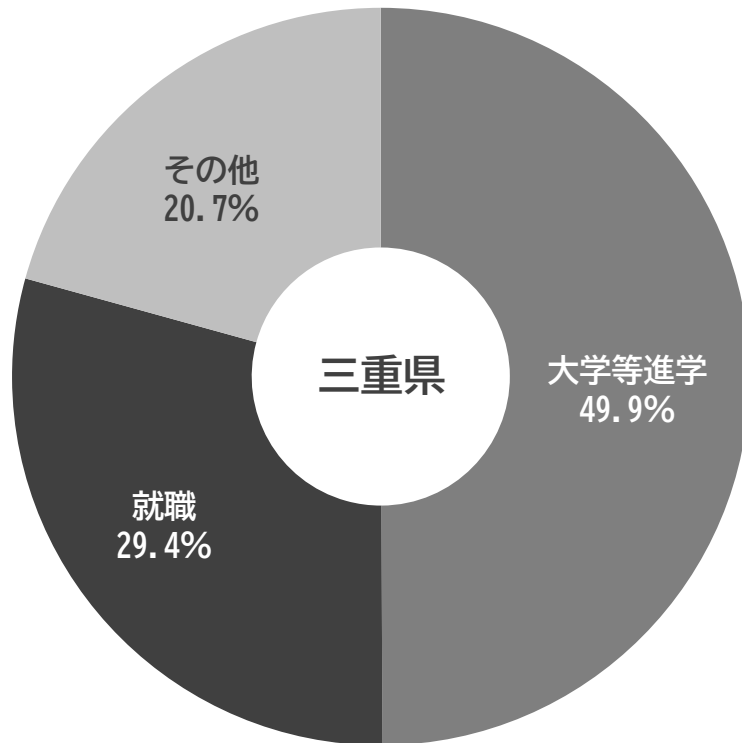


※ 学校基本調査（2024年）を基に三重県教育委員会で加工

高等学校(公立)卒業者の進路状況

※ 全日制課程及び定時制課程

全国と比べて、就職している生徒の割合が大きい



※ 学校基本調査（2024年）を基に三重県教育委員会で加工

高等学校における外国人生徒の割合

※ 全日制課程及び定時制課程

全国と比べて外国人生徒の割合が大きい

三重県 1.9% (国公私立)

全国 0.6% (国公私立)

三重県 2.3% (公立)

全国 0.6% (公立)

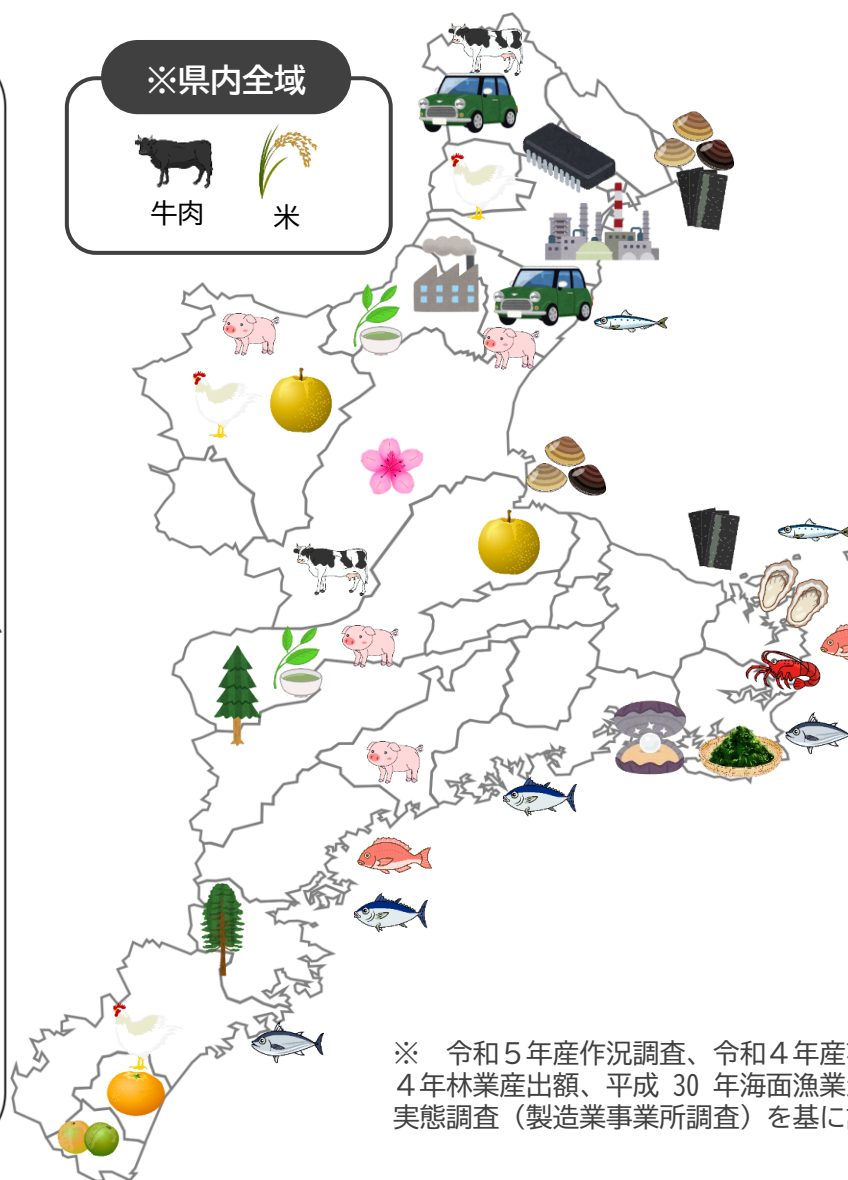
※ 学校基本調査（2024年）を基に三重県教育委員会で算出

三重県の特徴(主な産業)

凡例



※県内全域



農業

- 県内全域で主食用の米を中心に栽培
- 県北部では茶、県南部では柑橘類が重要な作物となっている
- 松阪牛、伊賀牛、熊野地鶏など、地域の特性を生かした畜産物を生産

林業

- 県土の64%を占める森林において、スギ、ヒノキを中心とした木材を生産

水産業

- 真珠をはじめ、魚類・貝類・藻類を養殖
- 海面漁業ではマグロやカツオ、伊勢エビなどを漁獲

製造業

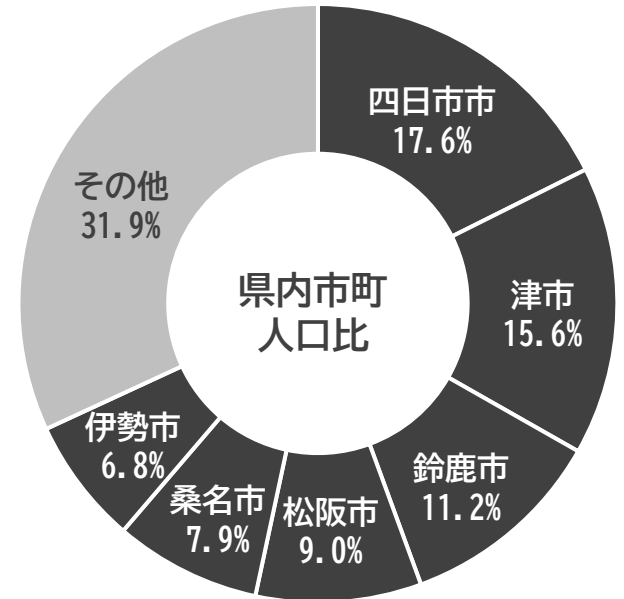
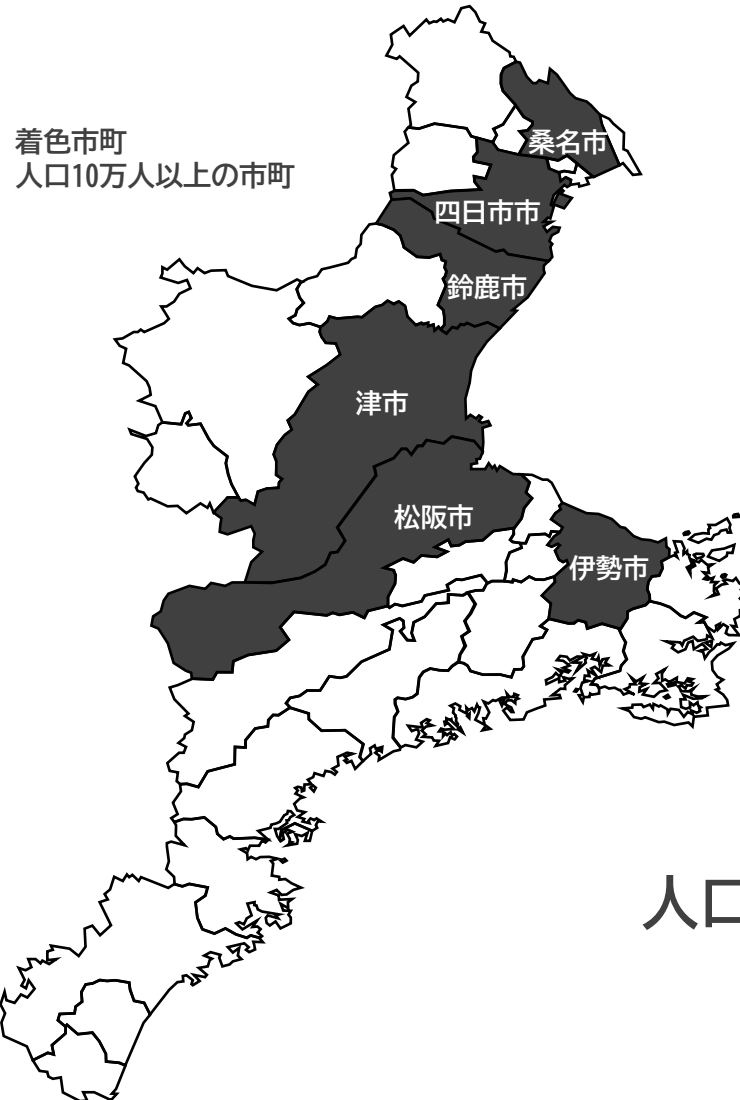
- 製造品出荷額は四日市市、いなべ市、鈴鹿市の順に多く、上位3市で県全体の約55%を占める

※ 令和5年産作況調査、令和4年産花木等生産状況調査、令和6年畜産統計調査、令和4年林業産出額、平成30年海面漁業生産統計調査（市町村別データ）、2023年経済構造実態調査（製造業事業所調査）を基に記載

三重県の特徴(人口分布:市町)

※令和7年6月1日時点

市町	人口
四日市市	299,262
津市	264,957
鈴鹿市	189,895
松阪市	152,007
桑名市	134,474
伊勢市	116,142
伊賀市	82,563
名張市	72,377
亀山市	49,343
いなべ市	43,983
志摩市	41,097
菟野町	39,513
東員町	25,536
明和町	21,899
鳥羽市	15,697
川越町	15,670
玉城町	14,565
尾鷲市	14,229
熊野市	14,226
多気町	13,143
紀北町	12,868
朝日町	11,090
紀宝町	9,566
南伊勢町	9,197
太台町	7,778
御浜町	7,422
度会町	7,273
大紀町	6,753
木曽岬町	5,682

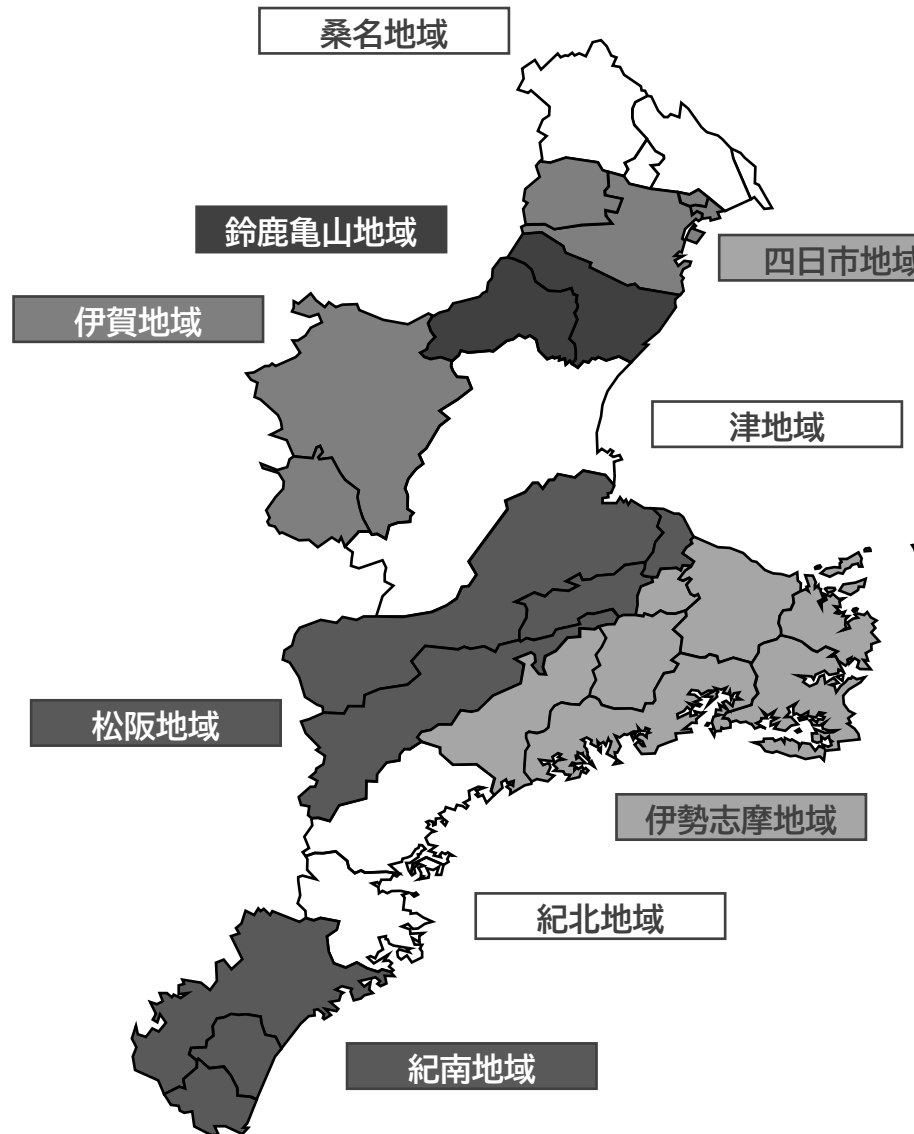


北中部を中心に、
人口10万人以上の市が点在

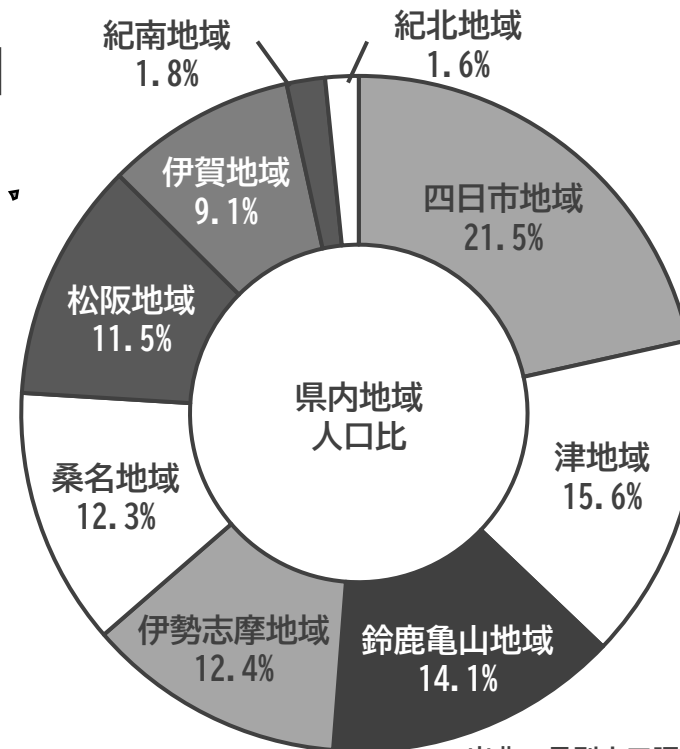
出典：月別人口調査結果（三重県）

三重県の特徴(人口分布:地域)

※令和7年6月1日時点



		(人)
四日市地域	365,535	松阪地域 194,827
津地域	264,957	伊賀地域 154,940
鈴鹿亀山地域	239,238	紀南地域 31,214
伊勢志摩地域	210,724	紀北地域 27,097
桑名地域	209,675	



出典：月別人口調査結果（三重県）